

【表紙】

| | |
|------------|--------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 平成26年5月9日提出 |
| 【計算期間】 | 第27期(自 平成25年2月19日至 平成26年2月17日) |
| 【ファンド名】 | 株式インデックス 225 |
| 【発行者名】 | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | C E O兼執行役社長 渡邊 国夫 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都中央区日本橋一丁目12番1号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 松井 秀仁 |
| 【連絡場所】 | 東京都中央区日本橋一丁目12番1号 |
| 【電話番号】 | 03-3241-9511 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

日経平均株価と連動する投資成果を目標として運用を行ないます。

信託金の限度額

受益権の信託金限度額は、1,000億円です。ただし、受託者と合意のうえ、当該信託金限度額を変更することができます。

<商品分類>

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類は以下の通りです。

なお、ファンドに該当する商品分類及び属性区分は下記の表中に網掛け表示しております。

(株式インデックス 225)

《商品分類表》

| 単体型・追加型 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉) | 補足分類 |
|---------|--------|-------------------|---------|
| 単体型 | 国内 | 株式 | インデックス型 |
| | 海外 | 債券 | |
| | | 不動産投信 | |
| 追加型 | 内外 | その他資産 () | 特殊型 |
| | | 資産複合 | |

《属性区分表》

| 投資対象資産 | 決算頻度 | 投資対象地域 | 対象インデックス |
|--------|------|--------|----------|
|--------|------|--------|----------|

| | | | |
|----------|------|--------|-------|
| 株式 一般 | 年1回 | グローバル | |
| 大型株 | 年2回 | | |
| 中小型株 | 年4回 | 日本 | 日経225 |
| 債券 | 年6回 | 北米 | |
| 一般 | (隔月) | 欧州 | |
| 公債 | 年12回 | アジア | TOPIX |
| 社債 | (毎月) | オセアニア | |
| その他債券 | 日々 | 中南米 | |
| クレジット属性 | その他 | アフリカ | その他 |
| () | () | 中近東 | () |
| 不動産投信 | | (中東) | |
| その他資産 | | エマージング | |
| () | | | |
| 資産複合 | | | |
| () | | | |
| 資産配分固定型 | | | |
| 資産配分変更型 | | | |

上記、商品分類及び属性区分の定義については、下記をご覧ください。

なお、下記一般社団法人投資信託協会のホームページでもご覧頂けます。

《一般社団法人投資信託協会インターネットホームページアドレス》 <http://www.toushin.or.jp/>

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類及び属性区分は以下の通りです。（平成22年7月1日現在）

< 商品分類表定義 >

[単位型投信・追加型投信の区分]

- (1) 単位型投信...当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信...一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

[投資対象地域による区分]

- (1) 国内...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外...目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

[投資対象資産(収益の源泉)による区分]

- (1) 株式...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。
- (5) 資産複合...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

[独立した区分]

- (1)MMF(マネー・マネージメント・ファンド)...「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2)MRF(マネー・リザーブ・ファンド)...「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- (3)ETF...投資信託及び投資法人に関する法律施行令(平成12年政令480号)第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

[補足分類]

- (1)インデックス型...目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2)特殊型...目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

< 属性区分表定義 >

[投資対象資産による属性区分]

株式

- (1)一般...次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。
- (2)大型株...目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。
- (3)中小型株...目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

債券

- (1)一般...次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。
- (2)公債...目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (3)社債...目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (4)その他債券...目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (5)格付等クレジットによる属性...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記(1)から(4)に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

不動産投信...これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

その他資産...組入れている資産を記載するものとする。

資産複合...以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

- (1)資産配分固定型...目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。
- (2)資産配分変更型...目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

[決算頻度による属性区分]

- (1)年1回...目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
- (2)年2回...目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
- (3)年4回...目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
- (4)年6回(隔月)...目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。
- (5)年12回(毎月)...目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
- (6)日々...目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。
- (7)その他...上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

[投資対象地域による属性区分(重複使用可能)]

- (1)グローバル...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。
- (2)日本...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3)北米...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4)欧州...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (5)アジア...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (6)オセアニア...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする

旨の記載があるものをいう。

- (7)中南米...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (8)アフリカ...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (9)中近東(中東)...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (10)エマージング...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

[投資形態による属性区分]

- (1)ファミリーファンド...目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。
- (2)ファンド・オブ・ファンズ...「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

[為替ヘッジによる属性区分]

- (1)為替ヘッジあり...目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
- (2)為替ヘッジなし...目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

[インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分]

- (1)日経225
- (2)TOPIX
- (3)その他の指数...前記指数にあてはまらない全てのものをいう。

[特殊型]

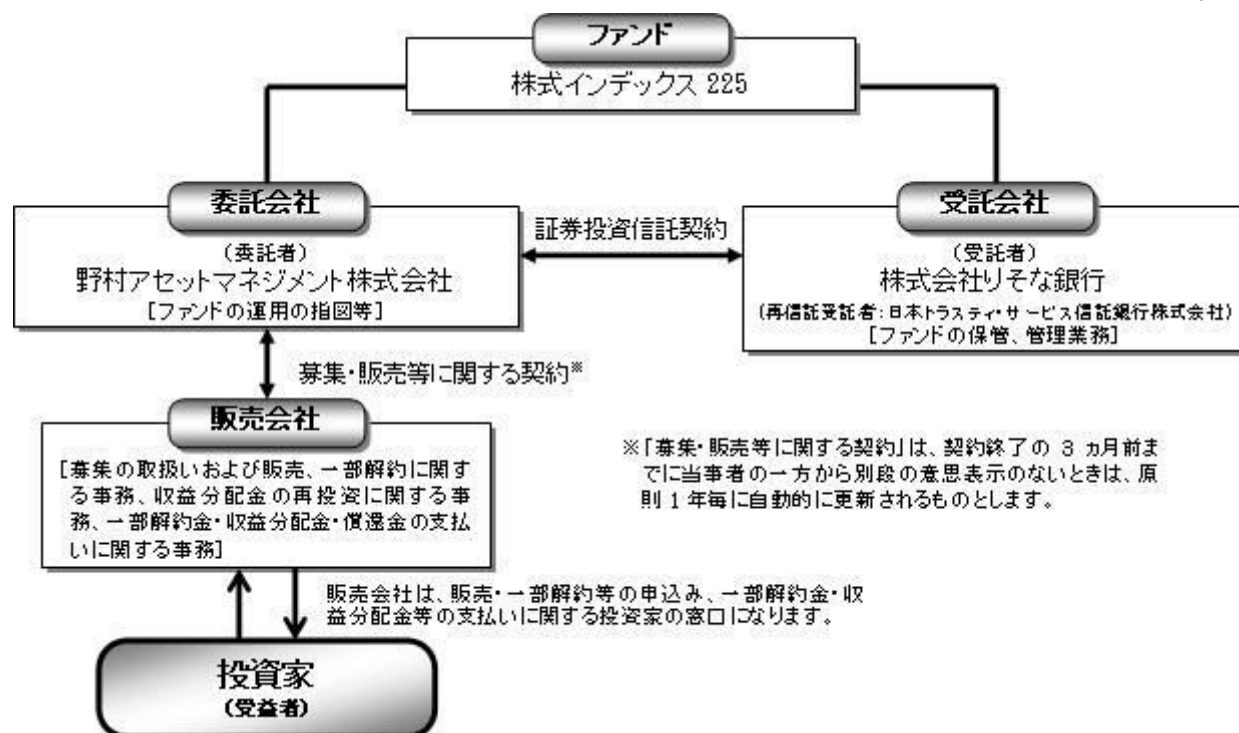
- (1)ブル・ベア型...目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2)条件付運用型...目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
- (3)ロング・ショート型 / 絶対収益追求型...目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4)その他型...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(3)に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

(2) 【ファンドの沿革】

昭和62年2月18日

信託契約締結、ファンドの設定日、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】



委託会社の概況(平成26年3月末現在)

・名称

野村アセットマネジメント株式会社

・本店の所在の場所

東京都中央区日本橋一丁目12番1号

・資本金の額

17,180百万円

・会社の沿革

昭和34年(1959年)12月1日 野村証券投資信託委託株式会社として設立
 平成9年(1997年)10月1日 投資顧問会社である野村投資顧問株式会社と合併して野村アセット・マネジメント投信株式会社に商号を変更
 平成12年(2000年)11月1日 野村アセットマネジメント株式会社に商号を変更
 平成15年(2003年)6月27日 委員会等設置会社へ移行

・大株主の状況

| 名称 | 住所 | 所有株式数 | 比率 |
|----------------|------------------|------------|------|
| 野村ホールディングス株式会社 | 東京都中央区日本橋一丁目9番1号 | 5,150,693株 | 100% |

2【投資方針】

(1)【投資方針】

投資成果を日経平均株価にできるだけ連動させるため、次のポートフォリオ管理を行ないます。

- ・原則として、投資対象銘柄（日経平均株価に採用されている銘柄）のうち200銘柄以上に等株数投資を行ないます。
- ・設定・解約などの資金の流出入に伴う売買は、原則として日経平均株価に採用されている銘柄に等

株数投資できる金額となるまで行なわないこととし、それまでは余裕資金運用部分で対応することとします。

- ・株式の組入比率は高位を保ちます。

なお、資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

日経平均株価(日経225)について

日経平均株価(日経225)とは、日本経済新聞社が発表している株価指標で、東京証券取引所第一部上場銘柄のうち市場を代表する225銘柄を対象に算出されます。わが国の株式市場全体の動向を示す指標の1つです。

[1] 日経平均株価計算式

日経平均株価 = 日経平均採用銘柄株価合計 ÷ 除数

a) 株価の合計は、みなし額面で50円額面以外は50円額面に換算。

b) 小数第3位を四捨五入して第2位まで求める。

c) 株価の採用優先順は次の通りです。

1. 現在の特別気配
2. 現在値(または終値)
3. 基準価格(基準価格は権利落ち理論値、前日の特別気配、前日の終値の優先順で採用された値)

[2] 除数の修正

採用銘柄中に市況変動によらない株価変動があった場合、原則として除数を修正します。また、採用銘柄の入れ替えがあった場合に除数を修正します。

権利落ち等をいいます。

[3] 銘柄の入れ替え

対象銘柄の入れ替えについては、東証第一部上場基準に抵触したものは随時、流動性が他の銘柄と比べて相対的に低くなったものなどについては、毎年見直し補充が行なわれます。

日経平均株価(日経225)に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は、日経平均株価の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

(2) 【投資対象】

ファンドは、わが国金融商品取引所に上場されている株式のうち日経平均株価に採用されている銘柄を主要投資対象とします。

なお、デリバティブの使用は、ヘッジ目的に限定します。

有価証券の指図範囲(約款第19条第1項)

委託者は、信託金を、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。)に投資することを指図します。

1. 株券、新株の引受権を表示する証券もしくは証書または新株予約権証券
2. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

3. 外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券で、前号の証券の性質を有するもの
4. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
5. 外国の者に対する権利で前号の有価証券に表示されるべき権利の性質を有するもの
6. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、第1号の証券または証書を以下「株式」といいます。

金融商品の指図範囲（約款第19条第2項）

委託者は、信託金を、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

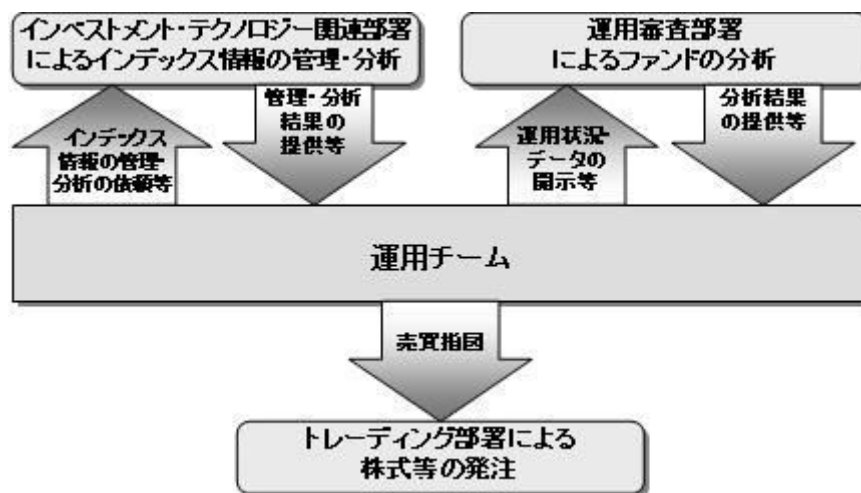
1. 預金
2. 指定金銭信託（上記「（2）投資対象 有価証券の指図範囲」に掲げるものを除く。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって、金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

その他の投資対象

1. 先物取引等
2. スワップ取引

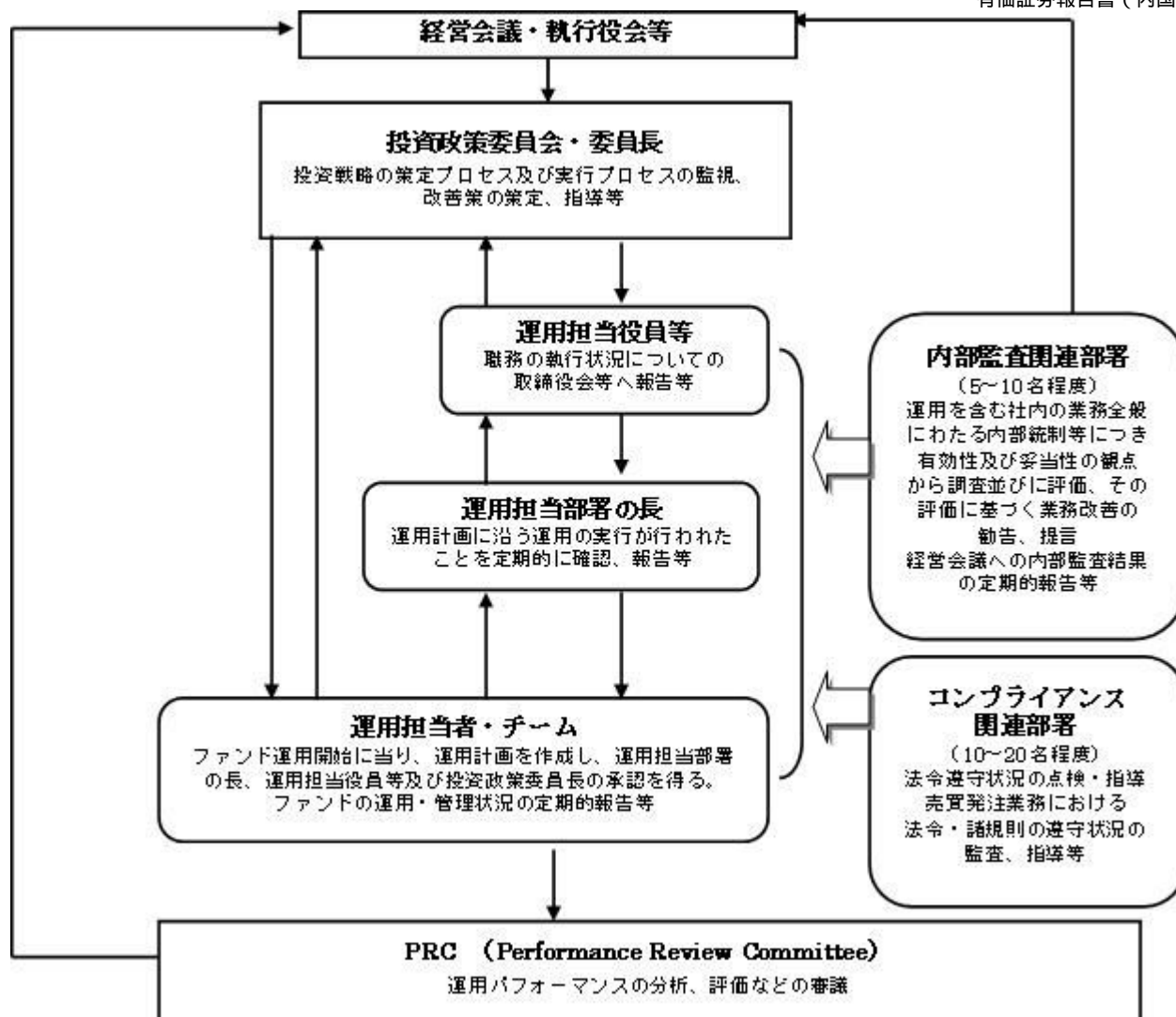
（3）【運用体制】

ファンドの運用体制は以下の通りです。



当社では、ファンドの運用に関する社内規程として、運用担当者に関する規程並びにスワップ取引、信用リスク管理、資金の借入、外国為替の予約取引等、信用取引等に関して各々、取扱い基準を設けております。

ファンドを含む委託会社における投資信託の内部管理及び意思決定を監督する組織等は以下の通りです。



委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

当社では、「受託会社」または受託会社の再信託先に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

運用の外部委託を行う場合、「運用の外部委託先」に対しては、外部委託先が行った日々の約定について、投資ガイドラインに沿ったものであるかを確認しています。また、コンプライアンスレポートの提出を義務付け、定期的に管理状況に関する報告を受けています。さらに、外部委託先の管理体制、コンプライアンス体制等について調査ならびに評価を行い、定期的に商品に関する委員会に報告しています。

ファンドの運用体制等は今後変更となる場合があります。

（４）【分配方針】

年1回の毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行いません。

分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

分配金額は、原則として利子・配当収入等を中心として委託者が決定します。

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行

ないます。

利子・配当収入とは、配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれ等に類する収益から支払利息を控除した額で、諸経費、監査費用、当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

売買益とは、売買損益に評価損益を加減した利益金額で、諸経費、監査費用、当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

ファンドの決算日

原則として**毎年2月17日**（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。

分配金のお支払い

分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。なお、時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、その収益分配金交付票と引き換えに受益者にお支払いしますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

（５）【投資制限】

株式への投資割合（運用の基本方針 2.運用方法 (3)投資制限）

株式への投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産への投資割合

外貨建資産への投資は行ないません。

デリバティブの使用はヘッジ目的に限定します。

投資信託証券への投資割合

投資信託証券への投資は行ないません。

先物取引等の運用指図・目的・範囲（約款第22条の2）

（ ）委託者は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所ならびに外国の金融商品取引所における邦貨建の株式、株価指数に係る先物取引およびオプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。

1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とし

- す。
2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額（組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額）を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等（株式、株価指数に係る先物取引の買建においては、信託財産が未収配当金として計上している額を含むものとし、この額には信託財産が当該限月を超えて受取る配当金も含まれます。）ならびに上記「(2)投資対象 金融商品の指図範囲」第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
 3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- ()委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるわが国の金利に係るこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行なうことの指図をすることができます。
1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品（信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに上記「(2)投資対象 金融商品の指図範囲」第1号から第4号に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下、「ヘッジ対象金利商品」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに上記「(2)投資対象 金融商品の指図範囲」第1号から第4号に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
 3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本条で規定する全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

スワップ取引の運用指図・目的・範囲（約款第22条の3）

- ()委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用および価格変動リスクを回避するため、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行なうことの指図をすることができます。
- ()スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ()スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
- ()スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- ()委託者は、スワップ取引を行なうにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行なうものとします。

投資する株式の範囲（約款第21条）

委託者が投資することを指図する株式は、わが国の金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当により取得する株式については、この限りではありません。

同一銘柄の株式への投資割合（運用の基本方針 2.運用方法 (3)投資制限）

同一銘柄の株式への投資割合には制限を設けません。

信用取引の指図範囲（約款第21条の2）

委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売り付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行なうことの指図をすることができるものとします。

信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。

1. 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
2. 株式分割により取得する株券
3. 有償増資により取得する株券
4. 売り出しにより取得する株券
5. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り、）の行使により取得可能な株券
転換社債型新株予約権付社債とは、新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含みます。）をいいます。
6. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権（前号のものを除きます。）の行使により取得可能な株券

有価証券の貸付の指図および範囲（約款第22条の4）

() 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。

株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

() 上記()に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

() 委託者は、株式の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。

資金の借入れ（約款第26条の2）

() 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

() 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日か

ら信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

()借入金の利息は信託財産中より支弁します。

同一の法人の発行する株式への投資制限(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)

同一の法人の発行する株式について、次の()の数が()の数を超えることとなる場合には、当該株式を信託財産で取得することを受託会社に指図しないものとします。

()委託者が運用の指図を行なうすべてのファンドで保有する当該株式に係る議決権の総数

()当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数

3【投資リスク】

基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行なっている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

したがって、ファンドにおいて、投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

[株価変動リスク]

ファンドは株式に投資を行ないますので、株価変動の影響を受けます。

基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

資金動向、市況動向等によっては、また、不慮の出来事等が起きた場合には、投資方針に沿った運用ができない場合があります。

ファンドが組み入れる有価証券の発行体において、利払いや償還金の支払いが滞る可能性があります。

有価証券への投資等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

ファンドの基準価額と対象インデックスは、費用等の要因により、完全に一致するものではありません。

また、ファンドの投資成果が対象インデックスとの連動または上回ることを保証するものではありません。

ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

委託会社におけるリスクマネジメント体制

リスク管理関連の委員会

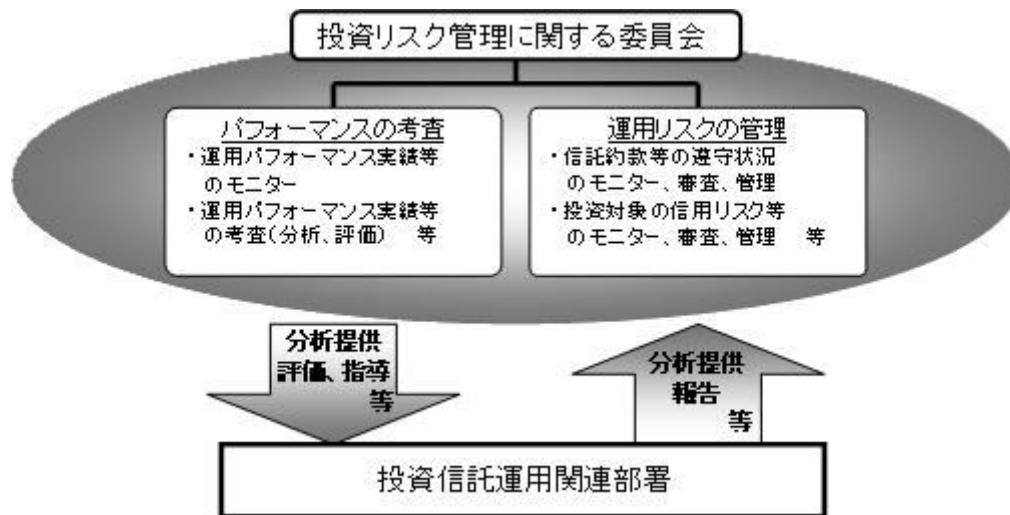
パフォーマンスの考査

投資信託の信託財産についてパフォーマンスに基づいた定期的な考査（分析、評価）の結果の報告、審議を行ないます。

運用リスクの管理

投資信託の信託財産の運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用部門その他関連部署への是正勧告を行なうことにより、適切な管理を行ないます。

リスク管理体制図



投資リスクに関する管理体制等は今後変更となる場合があります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

取得申込日の基準価額に2.16%（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する率）

（税抜2.0%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせ下さい。販売会社については、「サポートダイヤル」までお問い合わせ下さい。

収益分配金を再投資する場合には申込手数料は無手数料とします。

(2)【換金（解約）手数料】

換金手数料はありません。

（３）【信託報酬等】

信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10,000分の66.96（税抜年10,000分の62）以内（平成26年5月9日現在 年10,000分の66.96（税抜年10,000分の62））の率を乗じて得た額とし、その配分については次の通り（税抜）とします。

| | | |
|-------------|-------------|------------|
| < 委託会社 > | < 販売会社 > | < 受託会社 > |
| 年10,000分の27 | 年10,000分の30 | 年10,000分の5 |

* 上記配分は、平成26年5月9日現在の信託報酬率における配分です。

上記の信託報酬の総額は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。

（４）【その他の手数料等】

ファンドにおいて一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行なった場合、当該借入金の利息は信託財産から支払われます。

ファンドに関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産から支払われます。

ファンドに関する組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に係る消費税等に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する費用は信託財産から支払われます。

ファンドに係る監査費用および当該監査費用に係る消費税等に相当する金額は、信託報酬支払いのときに信託財産から支払われます。

これらの費用等の中には、運用状況等により変動するものがあり、事前に料率、上限額等を表示することができないものがあります。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取扱われます。

個人、法人別の課税について

個人の投資家に対する課税

< 収益分配金に対する課税 >

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（国税（所得税及び復興特別所得税）15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれます。なお、確定申告により、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することもできます。

なお、配当控除の適用があります。

< 換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対する課税 >

換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）については、申告分離課税により20.315%（国税15.315%および地方税5%）の税率が適用され、源泉徴収口座を選択した場合は20.315%の税率により源泉徴収が行なわれます。

[譲渡損失と収益分配金との間の損益通算について]

換金（解約）時および償還時の差損（譲渡損失）については、確定申告等により上場株式等の配当所

得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との通算が可能です。

公募株式投資信託は税法上、平成26年1月1日以降の少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の投資家に対する課税

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。

なお、上記以外の受益者(法人)の場合の課税の取扱いとは下記の通りです。

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の個別元本超過額については、15.315%(国税15.315%)の税率で源泉徴収が行なわれます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

源泉税は所有期間に応じて法人税額から控除

なお、原則として、益金不算入制度の適用が可能です。

税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

換金(解約)時および償還時の課税について

[個人の投資家の場合]

換金(解約)時および償還時の差益については、譲渡所得とみなして課税が行われます。

換金(解約)時および償還時の価額から取得費(申込手数料(税込)を含む)を控除した利益を譲渡益として課税対象となります。

[法人の投資家の場合]

換金(解約)時および償還時の個別元本超過額が源泉徴収の対象(配当所得)となります。

なお、買取りによるご換金について、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

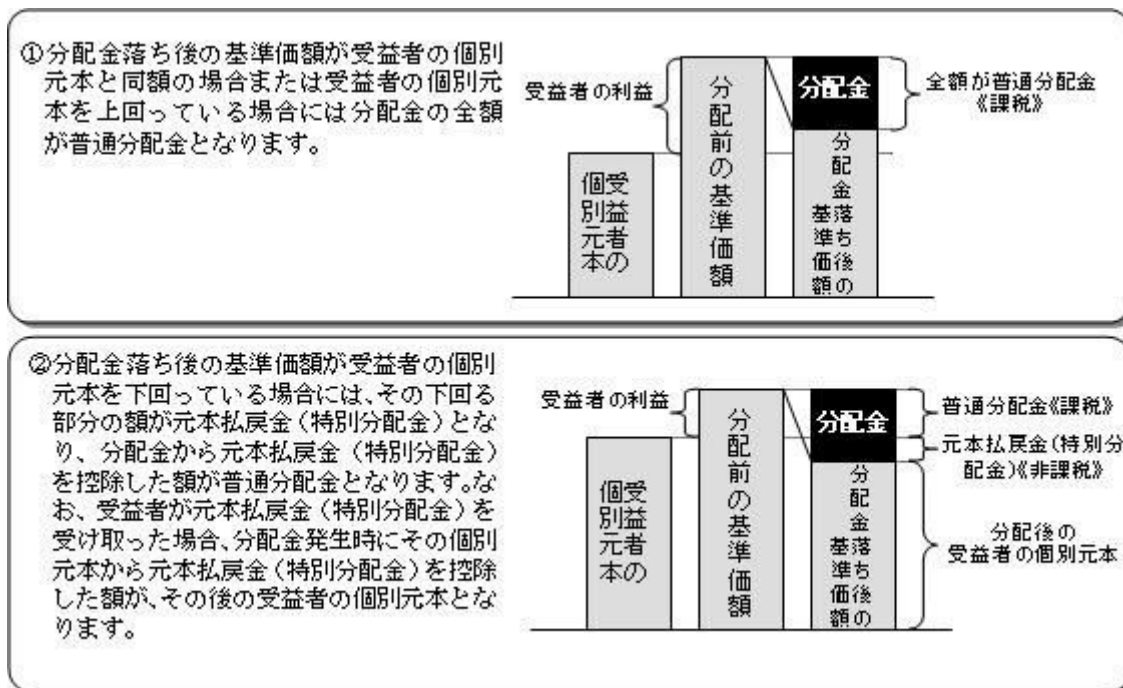
個別元本について

追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本をいいます。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合や受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合などには、当該受益者の個別元本が変わりますので、詳しくは販売会社へお問い合わせください。

分配金の課税について

分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)があります。



上図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

税法が改正された場合等は、上記「(5)課税上の取扱い」の内容が変更になる場合があります。

5【運用状況】

以下は平成26年 3月31日現在の運用状況であります。

また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(1)【投資状況】

| 資産の種類 | 国/地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|--------------------|------|----------------|---------|
| 株式 | 日本 | 24,923,916,600 | 96.62 |
| 現金・預金・その他資産(負債控除後) | | 871,724,643 | 3.37 |
| 合計(純資産総額) | | 25,795,641,243 | 100.00 |

その他の資産の投資状況

その他の資産として、下記の通り先物取引を利用しています。

評価にあたっては知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

| 資産の種類 | 建別 | 国/地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|----------|----|------|-------------|---------|
| 株価指数先物取引 | 買建 | 日本 | 845,310,000 | 3.27 |

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

| 順位 | 国/ 地域 | 種類 | 銘柄名 | 業種 | 数量 | 簿価 単価 (円) | 簿価 金額 (円) | 評価 単価 (円) | 評価 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|----|----------|----|-----------------|--------|---------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 | 日本 | 株式 | ファーストリテイリング | 小売業 | 66,000 | 34,770.30 | 2,294,840,000 | 37,435.00 | 2,470,710,000 | 9.57 |
| 2 | 日本 | 株式 | ソフトバンク | 情報・通信業 | 198,000 | 7,514.65 | 1,487,901,000 | 7,800.00 | 1,544,400,000 | 5.98 |
| 3 | 日本 | 株式 | ファナック | 電気機器 | 66,000 | 16,566.77 | 1,093,407,000 | 18,205.00 | 1,201,530,000 | 4.65 |
| 4 | 日本 | 株式 | KDDI | 情報・通信業 | 132,000 | 5,478.86 | 723,210,000 | 5,976.00 | 788,832,000 | 3.05 |
| 5 | 日本 | 株式 | 京セラ | 電気機器 | 132,000 | 4,445.66 | 586,828,000 | 4,653.00 | 614,196,000 | 2.38 |
| 6 | 日本 | 株式 | 本田技研工業 | 輸送用機器 | 132,000 | 3,742.40 | 493,998,000 | 3,634.00 | 479,688,000 | 1.85 |
| 7 | 日本 | 株式 | 東京エレクトロン | 電気機器 | 66,000 | 5,797.24 | 382,618,000 | 6,325.00 | 417,450,000 | 1.61 |
| 8 | 日本 | 株式 | アステラス製薬 | 医薬品 | 330,000 | 1,224.81 | 404,190,000 | 1,224.00 | 403,920,000 | 1.56 |
| 9 | 日本 | 株式 | セコム | サービス業 | 66,000 | 5,444.10 | 359,311,000 | 5,946.00 | 392,436,000 | 1.52 |
| 10 | 日本 | 株式 | 信越化学工業 | 化学 | 66,000 | 5,514.45 | 363,954,000 | 5,898.00 | 389,268,000 | 1.50 |
| 11 | 日本 | 株式 | トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 66,000 | 5,790.51 | 382,174,000 | 5,826.00 | 384,516,000 | 1.49 |
| 12 | 日本 | 株式 | ダイキン工業 | 機械 | 66,000 | 5,619.95 | 370,917,000 | 5,782.00 | 381,612,000 | 1.47 |
| 13 | 日本 | 株式 | デンソー | 輸送用機器 | 66,000 | 5,321.06 | 351,190,000 | 4,948.00 | 326,568,000 | 1.26 |
| 14 | 日本 | 株式 | 日東電工 | 化学 | 66,000 | 4,388.65 | 289,651,000 | 4,942.00 | 326,172,000 | 1.26 |
| 15 | 日本 | 株式 | 武田薬品工業 | 医薬品 | 66,000 | 4,742.10 | 312,979,000 | 4,892.00 | 322,872,000 | 1.25 |
| 16 | 日本 | 株式 | キヤノン | 電気機器 | 99,000 | 3,008.66 | 297,858,000 | 3,191.00 | 315,909,000 | 1.22 |
| 17 | 日本 | 株式 | テルモ | 精密機器 | 132,000 | 2,158.67 | 284,945,000 | 2,253.00 | 297,396,000 | 1.15 |
| 18 | 日本 | 株式 | TDK | 電気機器 | 66,000 | 4,255.12 | 280,838,000 | 4,310.00 | 284,460,000 | 1.10 |
| 19 | 日本 | 株式 | 住友不動産 | 不動産業 | 66,000 | 4,287.27 | 282,960,000 | 4,042.00 | 266,772,000 | 1.03 |
| 20 | 日本 | 株式 | エーザイ | 医薬品 | 66,000 | 3,785.21 | 249,824,000 | 4,018.00 | 265,188,000 | 1.02 |
| 21 | 日本 | 株式 | エヌ・ティ・ティ・データ | 情報・通信業 | 66,000 | 3,795.66 | 250,514,000 | 4,015.00 | 264,990,000 | 1.02 |
| 22 | 日本 | 株式 | セブン&アイ・ホールディングス | 小売業 | 66,000 | 3,825.81 | 252,504,000 | 3,944.00 | 260,304,000 | 1.00 |
| 23 | 日本 | 株式 | 電通 | サービス業 | 66,000 | 3,837.93 | 253,304,000 | 3,915.00 | 258,390,000 | 1.00 |
| 24 | 日本 | 株式 | ブリヂストン | ゴム製品 | 66,000 | 3,676.50 | 242,649,000 | 3,660.00 | 241,560,000 | 0.93 |
| 25 | 日本 | 株式 | 花王 | 化学 | 66,000 | 3,280.89 | 216,539,000 | 3,657.00 | 241,362,000 | 0.93 |
| 26 | 日本 | 株式 | 日揮 | 建設業 | 66,000 | 3,690.50 | 243,573,000 | 3,590.00 | 236,940,000 | 0.91 |
| 27 | 日本 | 株式 | オリンパス | 精密機器 | 66,000 | 3,267.33 | 215,644,000 | 3,290.00 | 217,140,000 | 0.84 |
| 28 | 日本 | 株式 | 日本たばこ産業 | 食料品 | 66,000 | 3,288.39 | 217,034,000 | 3,240.00 | 213,840,000 | 0.82 |
| 29 | 日本 | 株式 | トレンドマイクロ | 情報・通信業 | 66,000 | 3,135.30 | 206,930,000 | 3,195.00 | 210,870,000 | 0.81 |
| 30 | 日本 | 株式 | 三井不動産 | 不動産業 | 66,000 | 3,143.33 | 207,460,000 | 3,149.00 | 207,834,000 | 0.80 |

種類別及び業種別投資比率

| 種類 | 国内/国外 | 業種 | 投資比率(%) |
|----|-------|--------|---------|
| 株式 | 国内 | 水産・農林業 | 0.05 |
| | | 鉱業 | 0.13 |
| | | 建設業 | 2.94 |
| | | 食料品 | 4.07 |
| | | 繊維製品 | 0.52 |

| | |
|------------|-------|
| パルプ・紙 | 0.30 |
| 化学 | 6.78 |
| 医薬品 | 6.15 |
| 石油・石炭製品 | 0.36 |
| ゴム製品 | 1.18 |
| ガラス・土石製品 | 1.72 |
| 鉄鋼 | 0.27 |
| 非鉄金属 | 1.42 |
| 金属製品 | 0.44 |
| 機械 | 4.71 |
| 電気機器 | 16.61 |
| 輸送用機器 | 7.09 |
| 精密機器 | 2.61 |
| その他製品 | 0.78 |
| 電気・ガス業 | 0.30 |
| 陸運業 | 2.23 |
| 海運業 | 0.23 |
| 空運業 | 0.05 |
| 倉庫・運輸関連業 | 0.36 |
| 情報・通信業 | 11.80 |
| 卸売業 | 2.36 |
| 小売業 | 12.02 |
| 銀行業 | 1.22 |
| 証券、商品先物取引業 | 0.66 |
| 保険業 | 0.93 |
| その他金融業 | 0.52 |
| 不動産業 | 2.97 |
| サービス業 | 2.65 |
| 合 計 | 96.62 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

その他の資産として、下記の通り先物取引を利用しています。

評価にあたっては知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

| 種類 | 取引所 | 名称 | 買建/ 売建 | 枚数 | 通貨 | 帳簿価額 (円) | 評価額 (円) | 投資 比率 (%) |
|--------------|-------|-------------------------|-----------|----|-----|-------------|-------------|-----------------|
| 株価指数先物 取引 | 大阪取引所 | 日経平均株価先物(2014年06月 限) | 買建 | 57 | 日本円 | 835,078,516 | 845,310,000 | 3.27 |

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成26年3月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

| | | 純資産総額（百万円） | | 1口当たり純資産額(円) | |
|---------|---------------|------------|--------|--------------|--------|
| | | （分配落） | （分配付） | （分配落） | （分配付） |
| 第18計算期間 | (2005年 2月17日) | 22,548 | 22,686 | 0.4075 | 0.4100 |
| 第19計算期間 | (2006年 2月17日) | 29,072 | 29,230 | 0.5522 | 0.5552 |
| 第20計算期間 | (2007年 2月19日) | 26,078 | 26,265 | 0.6283 | 0.6328 |
| 第21計算期間 | (2008年 2月18日) | 20,835 | 20,944 | 0.4782 | 0.4807 |
| 第22計算期間 | (2009年 2月17日) | 15,860 | 16,008 | 0.2681 | 0.2706 |
| 第23計算期間 | (2010年 2月17日) | 19,400 | 19,561 | 0.3622 | 0.3652 |
| 第24計算期間 | (2011年 2月17日) | 20,623 | 20,786 | 0.3818 | 0.3848 |
| 第25計算期間 | (2012年 2月17日) | 18,691 | 18,860 | 0.3320 | 0.3350 |
| 第26計算期間 | (2013年 2月18日) | 21,550 | 21,736 | 0.4061 | 0.4096 |
| 第27計算期間 | (2014年 2月17日) | 24,345 | 24,558 | 0.5135 | 0.5180 |
| | 2013年 3月末日 | 23,473 | | 0.4444 | |
| | 4月末日 | 21,987 | | 0.4967 | |
| | 5月末日 | 22,352 | | 0.4935 | |
| | 6月末日 | 23,615 | | 0.4904 | |
| | 7月末日 | 22,870 | | 0.4897 | |
| | 8月末日 | 22,756 | | 0.4797 | |
| | 9月末日 | 24,149 | | 0.5205 | |
| | 10月末日 | 24,934 | | 0.5157 | |
| | 11月末日 | 24,738 | | 0.5638 | |
| | 12月末日 | 24,762 | | 0.5866 | |
| | 2014年 1月末日 | 24,675 | | 0.5369 | |
| | 2月末日 | 25,205 | | 0.5297 | |
| | 3月末日 | 25,795 | | 0.5328 | |

【分配の推移】

| | 計算期間 | 1口当たりの分配金 |
|---------|-------------------------|-----------|
| 第18計算期間 | 2004年 2月18日～2005年 2月17日 | 0.0025円 |
| 第19計算期間 | 2005年 2月18日～2006年 2月17日 | 0.0030円 |
| 第20計算期間 | 2006年 2月18日～2007年 2月19日 | 0.0045円 |
| 第21計算期間 | 2007年 2月20日～2008年 2月18日 | 0.0025円 |

| | | |
|---------|-------------------------|---------|
| 第22計算期間 | 2008年 2月19日～2009年 2月17日 | 0.0025円 |
| 第23計算期間 | 2009年 2月18日～2010年 2月17日 | 0.0030円 |
| 第24計算期間 | 2010年 2月18日～2011年 2月17日 | 0.0030円 |
| 第25計算期間 | 2011年 2月18日～2012年 2月17日 | 0.0030円 |
| 第26計算期間 | 2012年 2月18日～2013年 2月18日 | 0.0035円 |
| 第27計算期間 | 2013年 2月19日～2014年 2月17日 | 0.0045円 |

【収益率の推移】

| | 計算期間 | 収益率 |
|---------|-------------------------|-------|
| 第18計算期間 | 2004年 2月18日～2005年 2月17日 | 8.6% |
| 第19計算期間 | 2005年 2月18日～2006年 2月17日 | 36.2% |
| 第20計算期間 | 2006年 2月18日～2007年 2月19日 | 14.6% |
| 第21計算期間 | 2007年 2月20日～2008年 2月18日 | 23.5% |
| 第22計算期間 | 2008年 2月19日～2009年 2月17日 | 43.4% |
| 第23計算期間 | 2009年 2月18日～2010年 2月17日 | 36.2% |
| 第24計算期間 | 2010年 2月18日～2011年 2月17日 | 6.2% |
| 第25計算期間 | 2011年 2月18日～2012年 2月17日 | 12.3% |
| 第26計算期間 | 2012年 2月18日～2013年 2月18日 | 23.4% |
| 第27計算期間 | 2013年 2月19日～2014年 2月17日 | 27.6% |

各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

（４）【設定及び解約の実績】

| | 計算期間 | 設定口数 | 解約口数 | 発行済み口数 |
|---------|-------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 第18計算期間 | 2004年 2月18日～2005年 2月17日 | 12,479,318,587 | 16,879,225,991 | 55,331,117,782 |
| 第19計算期間 | 2005年 2月18日～2006年 2月17日 | 18,867,128,274 | 21,547,581,586 | 52,650,664,470 |
| 第20計算期間 | 2006年 2月18日～2007年 2月19日 | 15,413,709,678 | 26,554,137,007 | 41,510,237,141 |
| 第21計算期間 | 2007年 2月20日～2008年 2月18日 | 13,589,427,410 | 11,526,342,004 | 43,573,322,547 |
| 第22計算期間 | 2008年 2月19日～2009年 2月17日 | 22,152,724,316 | 6,573,669,776 | 59,152,377,087 |
| 第23計算期間 | 2009年 2月18日～2010年 2月17日 | 12,553,372,605 | 18,145,646,951 | 53,560,102,741 |
| 第24計算期間 | 2010年 2月18日～2011年 2月17日 | 20,170,571,130 | 19,714,029,072 | 54,016,644,799 |
| 第25計算期間 | 2011年 2月18日～2012年 2月17日 | 17,344,448,097 | 15,056,590,471 | 56,304,502,425 |
| 第26計算期間 | 2012年 2月18日～2013年 2月18日 | 22,333,140,700 | 25,565,532,417 | 53,072,110,708 |
| 第27計算期間 | 2013年 2月19日～2014年 2月17日 | 29,576,246,551 | 35,238,027,639 | 47,410,329,620 |

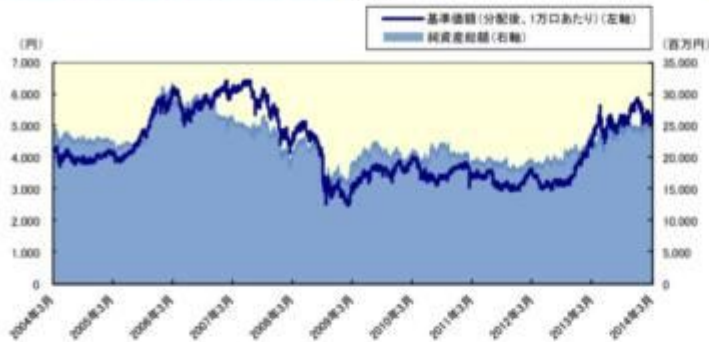
本邦外における設定及び解約の実績はありません。

参考情報

運用実績 (2014年3月31日現在)

基準価額・純資産の推移

(日次)



分配の推移

(1万円あたり、課税前)

| | |
|---------|-------|
| 2014年2月 | 45 円 |
| 2013年2月 | 35 円 |
| 2012年2月 | 30 円 |
| 2011年2月 | 30 円 |
| 2010年2月 | 30 円 |
| 設定来累計 | 853 円 |

主要な資産の状況

銘柄別投資比率(上位)

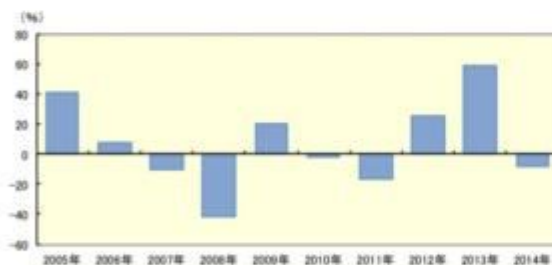
| 順位 | 銘柄 | 業種 | 投資比率 (%) |
|----|-------------|--------|----------|
| 1 | ファーストリテイリング | 小売業 | 9.8 |
| 2 | ソフトバンク | 情報・通信業 | 6.0 |
| 3 | ファナック | 電気機器 | 4.7 |
| 4 | KDDI | 情報・通信業 | 3.1 |
| 5 | 京セラ | 電気機器 | 2.4 |
| 6 | 本田技研工業 | 輸送用機器 | 1.9 |
| 7 | 東京エレクトロン | 電気機器 | 1.6 |
| 8 | アステラス製薬 | 医薬品 | 1.6 |
| 9 | セコム | サービス業 | 1.5 |
| 10 | 信越化学工業 | 化学 | 1.5 |

業種別投資比率(上位)

| 順位 | 業種 | 投資比率 (%) |
|----|--------|----------|
| 1 | 電気機器 | 16.6 |
| 2 | 小売業 | 12.0 |
| 3 | 情報・通信業 | 11.8 |
| 4 | 輸送用機器 | 7.1 |
| 5 | 化学 | 6.8 |

年間収益率の推移

(暦年ベース)



・ファンドの年間収益率は税引前分配金を再投資して算出。
・2014年は年初から運用実績作成基準日までの収益率。

●ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。●ファンドの運用状況は、別途、委託会社ホームページで開示している場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

申込期間中の各営業日に、有価証券届出書の「第一部 証券情報」にしたがって受益権の募集が行なわれます。

取得申込の受付については、午後3時までに取得申込みが行われかつ当該取得申込みの受付にかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込み分とします。

分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。（原則として、お買付け後のコース変更はできません。）

ファンドの申込（販売）手続きについてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

野村アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 0120-753104（フリーダイヤル）

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

販売の単位は、「一般コース」の場合は1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)または1万円以上1円単位、「自動けいぞく投資コース」の場合は1万円以上1円単位とします。ただし、「自動けいぞく投資コース」を選択した受益者が収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。なお、販売会社や申込形態によっては、どちらか一方のコースのみのお取扱いとなる場合や、申込単位が異なる場合等があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

積立方式

販売会社によっては、「定時定額購入サービス」等に関する契約を締結した場合、当該契約で規定する取得申込の単位によるものとします。

当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあります。

また、確定拠出年金法に基づいて個人または事業主が拠出した資金をもって受益権の取得申込をする場合は、「自動けいぞく投資コース」のみとし、1円以上1円単位とします。保険会社等が、保険業法に規定する特別勘定の投資対象として、受益権の取得申込をする場合は、販売会社によっては、「自動けいぞく投資コース」のお申込単位が1円以上1円単位となる場合があります。確定拠出年金等によるお買付けについて、詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。

受益権の販売価額は、取得申込日の基準価額とします。

金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、信託約款の規定に従い、委託者の判断でファンドの受益権の取得申込みの受付を中止すること、および既に受付けた取得申込みの受付を取り消す場合があります。

<申込手数料>

()取得申込日の基準価額に2.16%（税抜2.0%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせ下さい。販売会社については、「サポートダイヤル」までお問い合わせ下さい。

()収益分配金を再投資する場合には申込手数料は無手数料とします。

取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行なうことができます。委託者は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため

社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないません。受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行ないません。

2【換金（解約）手続等】

(a) 信託の一部解約（解約請求制）

受益者は、受益権を、「一般コース」の場合は1万口単位、1口単位または1円単位、「自動けいぞく投資コース」の場合は1円単位または1口単位で換金できます。

換金のお申込みの方法ならびに単位等については、販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

一部解約の実行の請求の受付については、午後3時までに、解約請求のお申込みが行われかつ、その解約請求のお申込みの受付にかかる販売会社所定の事務手続が完了したものを当日のお申込み分とします。

換金価額は、解約申込日の基準価額となります。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行なうため、原則として1日1件10億円を超える一部解約は行なえません。

また、別途、大口解約について、1日1件10億円以下の金額であっても、ファンドの残高、市場の流動性の状況等によっては、委託者の判断により一部解約の金額に制限を設ける場合や一部解約の実行の請求の受付時間に制限を設ける場合があります。

受付時間に制限とは、営業日の正午までに一部解約の実行の請求が行なわれ、かつ当該請求の受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものに制限する場合があります。

解約代金は、原則として解約申込み受付日から起算して4営業日目から販売会社において支払います。

金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、信託約款の規定に従い、委託者の判断で一部解約の実行の請求の受付を中止すること、および既に受付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消す場合があります。

また、一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行なった当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとします。

(b) 受益権の買取り（買取請求制）

販売会社は、受益者の請求があるときは、1万口単位、1口単位または1円単位のいずれか販売会社が定める単位（自動けいぞく投資契約等にかかる受益権については1円単位または1口単位）をもってその受益権を買取ります。

* 確定拠出年金法に基づいて個人または事業主が拠出した資金をもって受益権の取得をした受益者は、買取請求によるご換金はできません。

買取請求の受付については、午後3時までに、買取請求のお申込みが行われかつ、その買取請求のお申込みの受け付けにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込み分とします。

受益権の買取価額は、買取申込みの受付日の基準価額とします。ただし、受益権の管理方法等の一定の要件下では上記の買取価額が適用とならない場合があります。

また、買取価額と取得価額との差額については譲渡所得の取り扱いとなります。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行なうため、1日1件10億円を超える買取りは行なえません。

また、大口の買取りについて、1日1件10億円以下の金額であっても、大口解約の制限に準じて、別途、制限を設ける場合があります（詳しくは前記(a)信託の一部解約（解約請求制）をご参照下さい。）。

買取代金は、原則として買取申込み受付日から起算して4営業日目から販売会社において支払います。

金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、販売会社は、信託約款の規定に従い、委託者と協議のうえ、受益権の買取りを中止すること、および既に受付けた受益権の買取りを取り消す場合があります。

また、受益権の買取りが中止された場合には、受益者は買取り中止以前に行なった当日の買取請求を撤回できます。ただし、受益者がその買取請求を撤回しない場合には、当該受益権の買取価額は、買取り中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に買取申込みを受け付けたものとし、

上記(a)及び(b)の詳細については下記の照会先までお問い合わせ下さい。

野村アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 0120-753104（フリーダイヤル）

< 受付時間 > 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

換金の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行なうのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

受益証券をお手許で保有されている方は、換金のお申し込みに際して、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

< 基準価額の計算方法 >

基準価額とは、計算日において、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除して得た額をいいます。なお、ファンドにおいては1万口当りの価額で表示されます。

一部償却原価法とは、残存期間1年以内の公社債等について適用するアキュムレーションまたはアモチゼーションによる評価をいいます。

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

| 対象 | 評価方法 |
|----|-----------------------------------|
| 株式 | 原則として、基準価額計算日の金融商品取引所の最終相場で評価します。 |

ファンドの基準価額については下記の照会先までお問い合わせ下さい。

野村アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 0120-753104（フリーダイヤル）

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

（２）【保管】

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

（３）【信託期間】

無期限とします（昭和62年2月18日設定）。

（４）【計算期間】

原則として、毎年2月18日から翌年2月17日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、下記「（５）その他(a)ファンドの繰上償還条項 等」による解約の日までとします。

（５）【その他】

(a)ファンドの繰上償還条項

委託者は、信託契約の一部解約により受益権の口数が10億口を下回った場合またはこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃の場合もしくははやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させる場合があります。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(b)信託期間の終了

()委託者は、上記「(a)ファンドの繰上償還条項」にしたがい信託を終了させる場合は、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

()上記()の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異

議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

- ()上記()の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、上記(a)の信託契約の解約をしません。
- ()委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ()上記()から()までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記()の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
- ()委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- ()委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の委託者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記「(d)信託約款の変更()」に該当する場合を除き、当該委託者と受託者との間において存続します。
- ()受託者が委託者の承諾を受けてその任務を辞任する場合、または、委託者または受益者が裁判所に受託者の解任を請求し裁判所が受託者を解任した場合、委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(c)運用報告書

委託者は、ファンドの決算時および償還時に運用報告書を作成し、知られたる受益者に対して交付します。

(d)信託約款の変更

- ()委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
- ()委託者は、上記()の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ()上記()の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- ()上記()の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、上記()の信託約款の変更をしません。
- ()委託者は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ()委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、上記()から()までの規定にしたがいます。

(e)公告

委託者が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載しま

す。

<http://www.nomura-am.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

(f) 反対者の買取請求権

ファンドの信託契約の解約または信託約款の変更を行なう場合において、一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手續に関する事項は、前述の「(b)信託期間の終了」()または「(d)信託約款の変更」()に規定する公告または書面に付記します。

(g) 関係法人との契約の更新に関する手續

委託者と販売会社との間で締結する「募集・販売等に関する契約」は、契約終了の3ヵ月前までに当事者の一方から別段の意思表示のないときは、原則1年毎に自動的に更新されるものとします。

4 【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

収益分配金に対する請求権

収益分配金の支払い開始日

< 自動けいぞく投資契約を結んでいない場合 >

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。販売会社で受取り下さい。

なお、時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、その収益分配金交付票と引き換えに受益者にお支払いします。

< 自動けいぞく投資契約を結んでいる場合 >

税金を差引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。この場合の受益権の価額は、各計算期間終了日（決算日）の基準価額とします。

なお、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金請求権の失効

受益者は、収益分配金を支払開始日から5年間支払請求しないと権利を失います。

償還金に対する請求権

償還金の支払い開始日

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として償還日（償還日が休業日の場

合は翌営業日）から起算して5営業日までに支払いを開始します。

償還金請求権の失効

受益者は、償還金を支払開始日から10年間支払請求しないと権利を失います。

換金(解約)請求権

換金(解約)の単位

受益者は、受益権を「一般コース」の場合は1万口単位、1口単位または1円単位、「自動けいぞく投資コース」の場合は1円単位または1口単位で換金できます。

換金のお申込みの方法ならびに単位等について、販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換金(解約)代金の支払い開始日

一部解約金は、受益者の解約申込みの受付日から起算して、原則として、4営業日目から受益者にお支払いします。

受益証券をお手許で保有されている方は、換金のお申し込みに際して、個別に振替受益権とするための所要の手続きが必要であり、この手続きには時間を要しますので、ご注意ください。

第3【ファンドの経理状況】

株式インデックス 225

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)(以下「財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第27期計算期間(平成25年2月19日から平成26年2月17日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

| | 第26期 (平成25年 2月18日現在) | 第27期 (平成26年 2月17日現在) |
|------------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| コール・ローン | 963,093,233 | 1,096,723,561 |
| 株式 | 20,798,880,300 | 23,838,223,200 |
| 派生商品評価勘定 | 17,717,072 | 4,938,240 |
| 未収入金 | 7,467,064 | - |
| 未収配当金 | 32,866,500 | 26,138,400 |
| 未収利息 | 2,413 | 2,335 |
| 差入委託証拠金 | 26,570,000 | 70,970,000 |
| 流動資産合計 | 21,846,596,582 | 25,036,995,736 |
| 資産合計 | 21,846,596,582 | 25,036,995,736 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 派生商品評価勘定 | 164,704 | 4,398,232 |
| 未払金 | - | 390,210,397 |
| 未払収益分配金 | 185,752,387 | 213,346,483 |
| 未払解約金 | 42,709,946 | 3,963,939 |
| 未払受託者報酬 | 5,409,247 | 6,375,602 |
| 未払委託者報酬 | 61,665,321 | 72,681,819 |
| その他未払費用 | 324,494 | 382,475 |
| 流動負債合計 | 296,026,099 | 691,358,947 |
| 負債合計 | 296,026,099 | 691,358,947 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 53,072,110,708 | 47,410,329,620 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金 () | 31,521,540,225 | 23,064,692,831 |
| (分配準備積立金) | 2,208,813,467 | 3,707,360,315 |
| 元本等合計 | 21,550,570,483 | 24,345,636,789 |
| 純資産合計 | 21,550,570,483 | 24,345,636,789 |
| 負債純資産合計 | 21,846,596,582 | 25,036,995,736 |

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

| | 第26期 | | 第27期 | |
|---|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| | 自 至 | 平成24年 2月18日 平成25年 2月18日 | 自 至 | 平成25年 2月19日 平成26年 2月17日 |
| 営業収益 | | | | |
| 受取配当金 | | 412,846,770 | | 381,502,262 |
| 受取利息 | | 515,956 | | 572,776 |
| 有価証券売買等損益 | | 4,276,145,411 | | 5,331,145,429 |
| 派生商品取引等損益 | | 102,043,614 | | 119,505,380 |
| その他収益 | | 92,730 | | 71,962 |
| 営業収益合計 | | 4,791,644,481 | | 5,832,797,809 |
| 営業費用 | | | | |
| 受託者報酬 | | 10,391,857 | | 12,358,864 |
| 委託者報酬 | | 118,467,018 | | 140,890,906 |
| その他費用 | | 623,389 | | 741,408 |
| 営業費用合計 | | 129,482,264 | | 153,991,178 |
| 営業利益又は営業損失（ ） | | 4,662,162,217 | | 5,678,806,631 |
| 経常利益又は経常損失（ ） | | 4,662,162,217 | | 5,678,806,631 |
| 当期純利益又は当期純損失（ ） | | 4,662,162,217 | | 5,678,806,631 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ） | | 530,648,560 | | 2,798,556,580 |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ） | | 37,612,549,128 | | 31,521,540,225 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 17,140,770,193 | | 20,374,893,821 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | | 17,140,770,193 | | 20,374,893,821 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 14,995,522,560 | | 14,584,949,995 |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | | 14,995,522,560 | | 14,584,949,995 |
| 分配金 | | 185,752,387 | | 213,346,483 |
| 期末剰余金又は期末欠損金（ ） | | 31,521,540,225 | | 23,064,692,831 |

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

| | |
|------------------------|---|
| 1. 運用資産の評価基準及び評価方法 | 株式 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 先物取引 取引所の発表する計算日の清算値段を用いております。 |
| 2. 費用・収益の計上基準 | 受取配当金 受取配当金は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。 |
| 3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引の市場リスクの大きさを示すものではありません。 |
| 4. その他 | 当ファンドの計算期間は、信託約款の規定により、平成25年 2月19日から平成26年 2月17日までとなっております。 |

(貸借対照表に関する注記)

| 第26期 平成25年 2月18日現在 | 第27期 平成26年 2月17日現在 |
|--|--|
| 1. 計算期間の末日における受益権の総数 53,072,110,708口 | 1. 計算期間の末日における受益権の総数 47,410,329,620口 |
| 2. 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 31,521,540,225円 | 2. 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 23,064,692,831円 |
| 3. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.4061円 (10,000口当たり純資産額) (4,061円) | 3. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.5135円 (10,000口当たり純資産額) (5,135円) |

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

| 第26期 自 平成24年 2月18日 至 平成25年 2月18日 | 第27期 自 平成25年 2月19日 至 平成26年 2月17日 |
|--|--|
|--|--|

| 1. 分配金の計算過程 | | | 1. 分配金の計算過程 | | |
|---------------------------|----------------|-----------------|---------------------------|----------------|-----------------|
| 項目 | | | 項目 | | |
| 費用控除後の配当等収益額 | A | 311,920,677円 | 費用控除後の配当等収益額 | A | 242,076,941円 |
| 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 | B | 804,930,612円 | 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 | B | 2,638,173,110円 |
| 収益調整金額 | C | 28,786,683,657円 | 収益調整金額 | C | 26,765,030,621円 |
| 分配準備積立金額 | D | 1,277,714,565円 | 分配準備積立金額 | D | 1,040,456,747円 |
| 当ファンドの分配対象収益額 | E=A+B+C+D | 31,181,249,511円 | 当ファンドの分配対象収益額 | E=A+B+C+D | 30,685,737,419円 |
| 当ファンドの期末残存口数 | F | 53,072,110,708口 | 当ファンドの期末残存口数 | F | 47,410,329,620口 |
| 10,000口当たり収益分配対象額 | G=E/F × 10,000 | 5,875円 | 10,000口当たり収益分配対象額 | G=E/F × 10,000 | 6,472円 |
| 10,000口当たり分配金額 | H | 35円 | 10,000口当たり分配金額 | H | 45円 |
| 収益分配金金額 | I=F × H/10,000 | 185,752,387円 | 収益分配金金額 | I=F × H/10,000 | 213,346,483円 |

(金融商品に関する注記)

(1)金融商品の状況に関する事項

| 第26期 自 平成24年 2月18日 至 平成25年 2月18日 | 第27期 自 平成25年 2月19日 至 平成26年 2月17日 |
|---|---|
| <p>1. 金融商品に対する取組方針</p> <p>当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。</p> <p>2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク</p> <p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は、(その他の注記)の2 有価証券関係に記載しております。</p> <p>これらは、株価変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。</p> <p>当ファンドは、信託財産に属する資産の価格変動リスクの低減を目的として、株価指数先物取引を行っております。</p> <p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p> | <p>1. 金融商品に対する取組方針</p> <p>同左</p> <p>2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク</p> <p>同左</p> <p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p> |

| | |
|---|----|
| <p>委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの考査及び運用リスクの管理を行なっております。</p> <p>市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行なっております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行なっております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行なっております。</p> | 同左 |
|---|----|

(2)金融商品の時価等に関する事項

| 第26期 平成25年 2月18日現在 | 第27期 平成26年 2月17日現在 |
|--|---|
| <p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2. 時価の算定方法 株式 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>派生商品評価勘定 デリバティブ取引については、(その他の注記)の3デリバティブ取引関係に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p> | <p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 同左</p> <p>2. 時価の算定方法 同左</p> |

(関連当事者との取引に関する注記)

| 第26期 自 平成24年 2月18日 至 平成25年 2月18日 | 第27期 自 平成25年 2月19日 至 平成26年 2月17日 |
|---|--|
| 市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はございません。 | 同左 |

(その他の注記)

1 元本の移動

| 第26期 自 平成24年 2月18日 至 平成25年 2月18日 | | 第27期 自 平成25年 2月19日 至 平成26年 2月17日 | |
|--|-----------------|--|-----------------|
| 期首元本額 | 56,304,502,425円 | 期首元本額 | 53,072,110,708円 |
| 期中追加設定元本額 | 22,333,140,700円 | 期中追加設定元本額 | 29,576,246,551円 |
| 期中一部解約元本額 | 25,565,532,417円 | 期中一部解約元本額 | 35,238,027,639円 |

2 有価証券関係 売買目的有価証券

| 種類 | 第26期 自 平成24年 2月18日 至 平成25年 2月18日 | 第27期 自 平成25年 2月19日 至 平成26年 2月17日 |
|----|--|--|
| | 損益に含まれた評価差額（円） | |
| 株式 | 3,915,699,137 | 3,590,892,185 |
| 合計 | 3,915,699,137 | 3,590,892,185 |

3 デリバティブ取引関係

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益

| 種類 | 第26期(平成25年 2月18日現在) | | | 第27期(平成26年 2月17日現在) | | | | |
|----------------------------|---------------------|-------|-------------|---------------------|-------------|---------|-------------|---------|
| | 契約額等（円） | 時価（円） | 評価損益（円） | 契約額等（円） | 時価（円） | 評価損益（円） | | |
| | うち1年超 | | | うち1年超 | | | | |
| 市場取引 株価指数先物 取引 買建 | 712,650,000 | - | 730,240,000 | 17,552,368 | 489,380,000 | - | 489,940,000 | 540,008 |
| 合計 | 712,650,000 | - | 730,240,000 | 17,552,368 | 489,380,000 | - | 489,940,000 | 540,008 |

（注）時価の算定方法

1 先物取引

国内先物取引について

先物取引の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段を用いております。

上記取引でヘッジ会計が適用されているものはございません。

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式(平成26年 2月17日現在)

（単位：円）

| 種類 | 通貨 | 銘柄 | 株式数 | 評価額 | | 備考 |
|--------|--------|-----------------|------------|----------|-------------|----|
| | | | | 単価 | 金額 | |
| 株式 | 日本円 | 日本水産 | 65,000 | 220.00 | 14,300,000 | |
| | | マルハニチロホールディングス | 65,000 | 173.00 | 11,245,000 | |
| | | 国際石油開発帝石 | 26,000 | 1,245.00 | 32,370,000 | |
| | | コムシスホールディングス | 65,000 | 1,527.00 | 99,255,000 | |
| | | 大成建設 | 65,000 | 429.00 | 27,885,000 | |
| | | 大林組 | 65,000 | 564.00 | 36,660,000 | |
| | | 清水建設 | 65,000 | 509.00 | 33,085,000 | |
| | | 鹿島建設 | 65,000 | 350.00 | 22,750,000 | |
| | | 大和ハウス工業 | 65,000 | 1,815.00 | 117,975,000 | |
| | | 積水ハウス | 65,000 | 1,346.00 | 87,490,000 | |
| | | 日揮 | 65,000 | 3,694.00 | 240,110,000 | |
| | | 千代田化工建設 | 65,000 | 1,528.00 | 99,320,000 | |
| | | 日清製粉グループ本社 | 65,000 | 1,016.00 | 66,040,000 | |
| | | 明治ホールディングス | 6,500 | 6,300.00 | 40,950,000 | |
| | | 日本ハム | 65,000 | 1,571.00 | 102,115,000 | |
| | | サッポロホールディングス | 65,000 | 362.00 | 23,530,000 | |
| | | アサヒグループホールディングス | 65,000 | 2,590.00 | 168,350,000 | |
| | | 麒麟ホールディングス | 65,000 | 1,314.00 | 85,410,000 | |
| | | 宝ホールディングス | 65,000 | 776.00 | 50,440,000 | |
| | | キッコーマン | 65,000 | 1,827.00 | 118,755,000 | |
| | | 味の素 | 65,000 | 1,479.00 | 96,135,000 | |
| | | ニチレイ | 65,000 | 434.00 | 28,210,000 | |
| | | 日本たばこ産業 | 65,000 | 3,291.00 | 213,915,000 | |
| | | 東洋紡 | 65,000 | 179.00 | 11,635,000 | |
| | | ユニチカ | 65,000 | 61.00 | 3,965,000 | |
| | | 日清紡ホールディングス | 65,000 | 862.00 | 56,030,000 | |
| | | 帝人 | 65,000 | 237.00 | 15,405,000 | |
| | | 東レ | 65,000 | 700.00 | 45,500,000 | |
| | | 王子ホールディングス | 65,000 | 478.00 | 31,070,000 | |
| | | 日本製紙 | 6,500 | 1,973.00 | 12,824,500 | |
| | | 北越紀州製紙 | 65,000 | 422.00 | 27,430,000 | |
| | | クラレ | 65,000 | 1,102.00 | 71,630,000 | |
| | | 旭化成 | 65,000 | 725.00 | 47,125,000 | |
| | | 昭和電工 | 65,000 | 140.00 | 9,100,000 | |
| 住友化学 | 65,000 | 416.00 | 27,040,000 | | | |
| 日産化学工業 | 65,000 | 1,453.00 | 94,445,000 | | | |
| 日本曹達 | 65,000 | 540.00 | 35,100,000 | | | |
| 東ソー | 65,000 | 407.00 | 26,455,000 | | | |
| トクヤマ | 65,000 | 376.00 | 24,440,000 | | | |
| 電気化学工業 | 65,000 | 383.00 | 24,895,000 | | | |

| | | | |
|--------------------|--------|----------|-------------|
| 信越化学工業 | 65,000 | 5,513.00 | 358,345,000 |
| 三井化学 | 65,000 | 269.00 | 17,485,000 |
| 三菱ケミカルホールディングス | 32,500 | 453.00 | 14,722,500 |
| 宇部興産 | 65,000 | 186.00 | 12,090,000 |
| 日本化薬 | 65,000 | 1,338.00 | 86,970,000 |
| 花王 | 65,000 | 3,276.00 | 212,940,000 |
| 富士フイルムホールディングス | 65,000 | 2,785.00 | 181,025,000 |
| 資生堂 | 65,000 | 1,670.00 | 108,550,000 |
| 日東電工 | 65,000 | 4,384.00 | 284,960,000 |
| 協和発酵キリン | 65,000 | 1,041.00 | 67,665,000 |
| 武田薬品工業 | 65,000 | 4,741.00 | 308,165,000 |
| アステラス製薬 | 65,000 | 6,127.00 | 398,255,000 |
| 大日本住友製薬 | 65,000 | 1,669.00 | 108,485,000 |
| 塩野義製薬 | 65,000 | 2,011.00 | 130,715,000 |
| 中外製薬 | 65,000 | 2,240.00 | 145,600,000 |
| エーザイ | 65,000 | 3,783.00 | 245,895,000 |
| 第一三共 | 65,000 | 1,664.00 | 108,160,000 |
| 昭和シェル石油 | 65,000 | 929.00 | 60,385,000 |
| JXホールディングス | 65,000 | 500.00 | 32,500,000 |
| 横浜ゴム | 65,000 | 941.00 | 61,165,000 |
| ブリヂストン | 65,000 | 3,679.00 | 239,135,000 |
| 日東紡績 | 65,000 | 420.00 | 27,300,000 |
| 旭硝子 | 65,000 | 550.00 | 35,750,000 |
| 日本板硝子 | 65,000 | 131.00 | 8,515,000 |
| 日本電気硝子 | 98,000 | 449.00 | 44,002,000 |
| 住友大阪セメント | 65,000 | 393.00 | 25,545,000 |
| 太平洋セメント | 65,000 | 377.00 | 24,505,000 |
| 東海カーボン | 65,000 | 308.00 | 20,020,000 |
| TOTO | 65,000 | 1,483.00 | 96,395,000 |
| 日本碍子 | 65,000 | 2,093.00 | 136,045,000 |
| 新日鐵住金 | 65,000 | 300.00 | 19,500,000 |
| 神戸製鋼所 | 65,000 | 144.00 | 9,360,000 |
| ジェイ エフ イー ホールディングス | 6,500 | 2,050.00 | 13,325,000 |
| 日新製鋼ホールディングス | 6,500 | 1,016.00 | 6,604,000 |
| 大平洋金属 | 65,000 | 322.00 | 20,930,000 |
| 日本軽金属ホールディングス | 65,000 | 140.00 | 9,100,000 |
| 三井金属鉱業 | 65,000 | 257.00 | 16,705,000 |
| 東邦亜鉛 | 65,000 | 326.00 | 21,190,000 |
| 三菱マテリアル | 65,000 | 320.00 | 20,800,000 |
| 住友金属鉱山 | 65,000 | 1,349.00 | 87,685,000 |
| DOWAホールディングス | 65,000 | 870.00 | 56,550,000 |

| | | | |
|------------------|--------|----------|-------------|
| 古河機械金属 | 65,000 | 189.00 | 12,285,000 |
| 古河電気工業 | 65,000 | 272.00 | 17,680,000 |
| 住友電気工業 | 65,000 | 1,558.00 | 101,270,000 |
| フジクラ | 65,000 | 464.00 | 30,160,000 |
| SUMCO | 6,500 | 725.00 | 4,712,500 |
| 東洋製罐グループホールディングス | 65,000 | 1,810.00 | 117,650,000 |
| 日本製鋼所 | 65,000 | 502.00 | 32,630,000 |
| オークマ | 65,000 | 925.00 | 60,125,000 |
| アマダ | 65,000 | 811.00 | 52,715,000 |
| 小松製作所 | 65,000 | 2,098.00 | 136,370,000 |
| 住友重機械工業 | 65,000 | 467.00 | 30,355,000 |
| 日立建機 | 65,000 | 1,967.00 | 127,855,000 |
| クボタ | 65,000 | 1,386.00 | 90,090,000 |
| 荏原製作所 | 65,000 | 693.00 | 45,045,000 |
| ダイキン工業 | 65,000 | 5,623.00 | 365,495,000 |
| 日本精工 | 65,000 | 1,125.00 | 73,125,000 |
| NTN | 65,000 | 377.00 | 24,505,000 |
| ジェイテクト | 65,000 | 1,544.00 | 100,360,000 |
| 日立造船 | 13,000 | 585.00 | 7,605,000 |
| 三菱重工業 | 65,000 | 616.00 | 40,040,000 |
| IHI | 65,000 | 457.00 | 29,705,000 |
| コニカミノルタ | 65,000 | 1,030.00 | 66,950,000 |
| ミネベア | 65,000 | 823.00 | 53,495,000 |
| 日立製作所 | 65,000 | 786.00 | 51,090,000 |
| 東芝 | 65,000 | 433.00 | 28,145,000 |
| 三菱電機 | 65,000 | 1,210.00 | 78,650,000 |
| 富士電機 | 65,000 | 437.00 | 28,405,000 |
| 安川電機 | 65,000 | 1,442.00 | 93,730,000 |
| 明電舎 | 65,000 | 404.00 | 26,260,000 |
| ジーエス・ユアサコーポレーション | 65,000 | 565.00 | 36,725,000 |
| 日本電気 | 65,000 | 309.00 | 20,085,000 |
| 富士通 | 65,000 | 615.00 | 39,975,000 |
| 沖電気工業 | 65,000 | 230.00 | 14,950,000 |
| パナソニック | 65,000 | 1,140.00 | 74,100,000 |
| シャープ | 65,000 | 312.00 | 20,280,000 |
| ソニー | 65,000 | 1,718.00 | 111,670,000 |
| TDK | 65,000 | 4,255.00 | 276,575,000 |
| ミツミ電機 | 65,000 | 735.00 | 47,775,000 |
| アルプス電気 | 65,000 | 1,338.00 | 86,970,000 |
| パイオニア | 65,000 | 223.00 | 14,495,000 |
| 横河電機 | 65,000 | 1,448.00 | 94,120,000 |

| | | | |
|--------------|---------|-----------|---------------|
| アドバンテスト | 130,000 | 1,063.00 | 138,190,000 |
| カシオ計算機 | 65,000 | 1,115.00 | 72,475,000 |
| ファナック | 65,000 | 16,545.00 | 1,075,425,000 |
| 京セラ | 130,000 | 4,445.00 | 577,850,000 |
| 太陽誘電 | 65,000 | 1,215.00 | 78,975,000 |
| 大日本スクリーン製造 | 65,000 | 506.00 | 32,890,000 |
| キヤノン | 97,500 | 3,007.00 | 293,182,500 |
| リコー | 65,000 | 1,213.00 | 78,845,000 |
| 東京エレクトロン | 65,000 | 5,790.00 | 376,350,000 |
| デンソー | 65,000 | 5,330.00 | 346,450,000 |
| 三井造船 | 65,000 | 197.00 | 12,805,000 |
| 川崎重工業 | 65,000 | 422.00 | 27,430,000 |
| 日産自動車 | 65,000 | 919.00 | 59,735,000 |
| いすゞ自動車 | 65,000 | 630.00 | 40,950,000 |
| トヨタ自動車 | 65,000 | 5,793.00 | 376,545,000 |
| 日野自動車 | 65,000 | 1,494.00 | 97,110,000 |
| 三菱自動車工業 | 6,500 | 1,108.00 | 7,202,000 |
| マツダ | 65,000 | 478.00 | 31,070,000 |
| 本田技研工業 | 130,000 | 3,747.00 | 487,110,000 |
| スズキ | 65,000 | 2,574.00 | 167,310,000 |
| 富士重工業 | 65,000 | 2,750.00 | 178,750,000 |
| テルモ | 65,000 | 4,315.00 | 280,475,000 |
| ニコン | 65,000 | 1,775.00 | 115,375,000 |
| オリンパス | 65,000 | 3,265.00 | 212,225,000 |
| シチズンホールディングス | 65,000 | 839.00 | 54,535,000 |
| 凸版印刷 | 65,000 | 735.00 | 47,775,000 |
| 大日本印刷 | 65,000 | 995.00 | 64,675,000 |
| ヤマハ | 65,000 | 1,345.00 | 87,425,000 |
| 東京電力 | 6,500 | 468.00 | 3,042,000 |
| 中部電力 | 6,500 | 1,226.00 | 7,969,000 |
| 関西電力 | 6,500 | 1,115.00 | 7,247,500 |
| 東京瓦斯 | 65,000 | 483.00 | 31,395,000 |
| 大阪瓦斯 | 65,000 | 399.00 | 25,935,000 |
| 東武鉄道 | 65,000 | 477.00 | 31,005,000 |
| 東京急行電鉄 | 65,000 | 625.00 | 40,625,000 |
| 小田急電鉄 | 65,000 | 890.00 | 57,850,000 |
| 京王電鉄 | 65,000 | 673.00 | 43,745,000 |
| 京成電鉄 | 65,000 | 890.00 | 57,850,000 |
| 東日本旅客鉄道 | 6,500 | 7,455.00 | 48,457,500 |
| 西日本旅客鉄道 | 6,500 | 4,136.00 | 26,884,000 |
| 東海旅客鉄道 | 6,500 | 11,100.00 | 72,150,000 |
| 日本通運 | 65,000 | 472.00 | 30,680,000 |

| | | | |
|---------------------|---------|-----------|---------------|
| ヤマトホールディングス | 65,000 | 2,027.00 | 131,755,000 |
| 日本郵船 | 65,000 | 323.00 | 20,995,000 |
| 商船三井 | 65,000 | 410.00 | 26,650,000 |
| 川崎汽船 | 65,000 | 237.00 | 15,405,000 |
| ANAホールディングス | 65,000 | 222.00 | 14,430,000 |
| 三菱倉庫 | 65,000 | 1,378.00 | 89,570,000 |
| ヤフー | 26,000 | 624.00 | 16,224,000 |
| トレンドマイクロ | 65,000 | 3,135.00 | 203,775,000 |
| スカパーJ S A Tホールディングス | 6,500 | 502.00 | 3,263,000 |
| 日本電信電話 | 6,500 | 5,470.00 | 35,555,000 |
| K D D I | 130,000 | 5,476.00 | 711,880,000 |
| N T T ドコモ | 6,500 | 1,619.00 | 10,523,500 |
| 東宝 | 6,500 | 2,030.00 | 13,195,000 |
| エヌ・ティ・ティ・データ | 65,000 | 3,795.00 | 246,675,000 |
| コナミ | 65,000 | 2,272.00 | 147,680,000 |
| ソフトバンク | 195,000 | 7,514.00 | 1,465,230,000 |
| 双日 | 6,500 | 180.00 | 1,170,000 |
| 伊藤忠商事 | 65,000 | 1,276.00 | 82,940,000 |
| 丸紅 | 65,000 | 711.00 | 46,215,000 |
| 豊田通商 | 65,000 | 2,323.00 | 150,995,000 |
| 三井物産 | 65,000 | 1,542.00 | 100,230,000 |
| 住友商事 | 65,000 | 1,309.00 | 85,085,000 |
| 三菱商事 | 65,000 | 1,974.00 | 128,310,000 |
| J . フロント リテイリング | 65,000 | 684.00 | 44,460,000 |
| 三越伊勢丹ホールディングス | 65,000 | 1,189.00 | 77,285,000 |
| セブン&アイ・ホールディングス | 65,000 | 3,826.00 | 248,690,000 |
| 高島屋 | 65,000 | 894.00 | 58,110,000 |
| 丸井グループ | 65,000 | 881.00 | 57,265,000 |
| イオン | 65,000 | 1,259.00 | 81,835,000 |
| ユニグループ・ホールディングス | 65,000 | 613.00 | 39,845,000 |
| ファーストリテイリング | 65,000 | 34,750.00 | 2,258,750,000 |
| 新生銀行 | 65,000 | 204.00 | 13,260,000 |
| あおぞら銀行 | 65,000 | 292.00 | 18,980,000 |
| 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 65,000 | 596.00 | 38,740,000 |
| りそなホールディングス | 6,500 | 535.00 | 3,477,500 |
| 三井住友トラスト・ホールディングス | 65,000 | 485.00 | 31,525,000 |
| 三井住友フィナンシャルグループ | 6,500 | 4,644.00 | 30,186,000 |
| 千葉銀行 | 65,000 | 610.00 | 39,650,000 |
| 横浜銀行 | 65,000 | 497.00 | 32,305,000 |
| ふくおかフィナンシャルグループ | 65,000 | 398.00 | 25,870,000 |

| | | | | | |
|----|--------------------------|--------|----------|----------------|--|
| | 静岡銀行 | 65,000 | 953.00 | 61,945,000 | |
| | みずほフィナンシャルグループ | 65,000 | 211.00 | 13,715,000 | |
| | 大和証券グループ本社 | 65,000 | 940.00 | 61,100,000 | |
| | 野村ホールディングス | 65,000 | 692.00 | 44,980,000 | |
| | 松井証券 | 65,000 | 1,103.00 | 71,695,000 | |
| | N K S Jホールディングス | 16,300 | 2,719.00 | 44,319,700 | |
| | M S & A Dインシュアランスグループホール | 19,500 | 2,439.00 | 47,560,500 | |
| | ソニーフィナンシャルホールディングス | 13,000 | 1,702.00 | 22,126,000 | |
| | 第一生命保険 | 6,500 | 1,532.00 | 9,958,000 | |
| | 東京海上ホールディングス | 32,500 | 3,100.00 | 100,750,000 | |
| | T & Dホールディングス | 13,000 | 1,240.00 | 16,120,000 | |
| | クレディセゾン | 65,000 | 2,303.00 | 149,695,000 | |
| | 東急不動産ホールディングス | 65,000 | 837.00 | 54,405,000 | |
| | 三井不動産 | 65,000 | 3,146.00 | 204,490,000 | |
| | 三菱地所 | 65,000 | 2,452.00 | 159,380,000 | |
| | 平和不動産 | 13,000 | 1,525.00 | 19,825,000 | |
| | 東京建物 | 65,000 | 868.00 | 56,420,000 | |
| | 住友不動産 | 65,000 | 4,294.00 | 279,110,000 | |
| | 電通 | 65,000 | 3,840.00 | 249,600,000 | |
| | 東京ドーム | 65,000 | 582.00 | 37,830,000 | |
| | セコム | 65,000 | 5,440.00 | 353,600,000 | |
| 小計 | 銘柄数：225 | | | 23,838,223,200 | |
| | 組入時価比率：97.9% | | | 100.0% | |
| 合計 | | | | 23,838,223,200 | |

(注1)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

(2)株式以外の有価証券(平成26年 2月17日現在)

該当事項はありません。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

財務諸表における注記事項として記載しているため省略しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

平成26年 3月31日現在

| | |
|----------------|-----------------|
| 資産総額 | 27,034,291,154円 |
| 負債総額 | 1,238,649,911円 |
| 純資産総額（ - ） | 25,795,641,243円 |
| 発行済口数 | 48,418,962,007口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 0.5328円 |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 受益証券の名義書換えの事務等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

(3) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託者は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(5) 受益権の再分割

委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとしします。

(6) 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1)資本金の額

平成26年3月末現在、17,180百万円

会社が発行する株式総数 20,000,000株

発行済株式総数 5,150,693株

過去5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

(2)会社の機構

(a)会社の意思決定機構

当社は委員会設置会社であり、会社の機関として株主総会、取締役会のほか代表執行役ならびに執行役、指名委員会、監査委員会および報酬委員会をおきますが、代表取締役および監査役会は設けません。各機関の権限は以下のとおりであります。

株主総会

株主により構成され、取締役・会計監査人の選任・解任、剰余金の配当の承認、定款変更・合併等の重要事項の承認等を行います。

取締役会

取締役により構成され、当社の業務につき意思決定を行います。また執行役・代表執行役、各委員会の委員等を選任し、取締役および執行役の職務の執行を監督します。

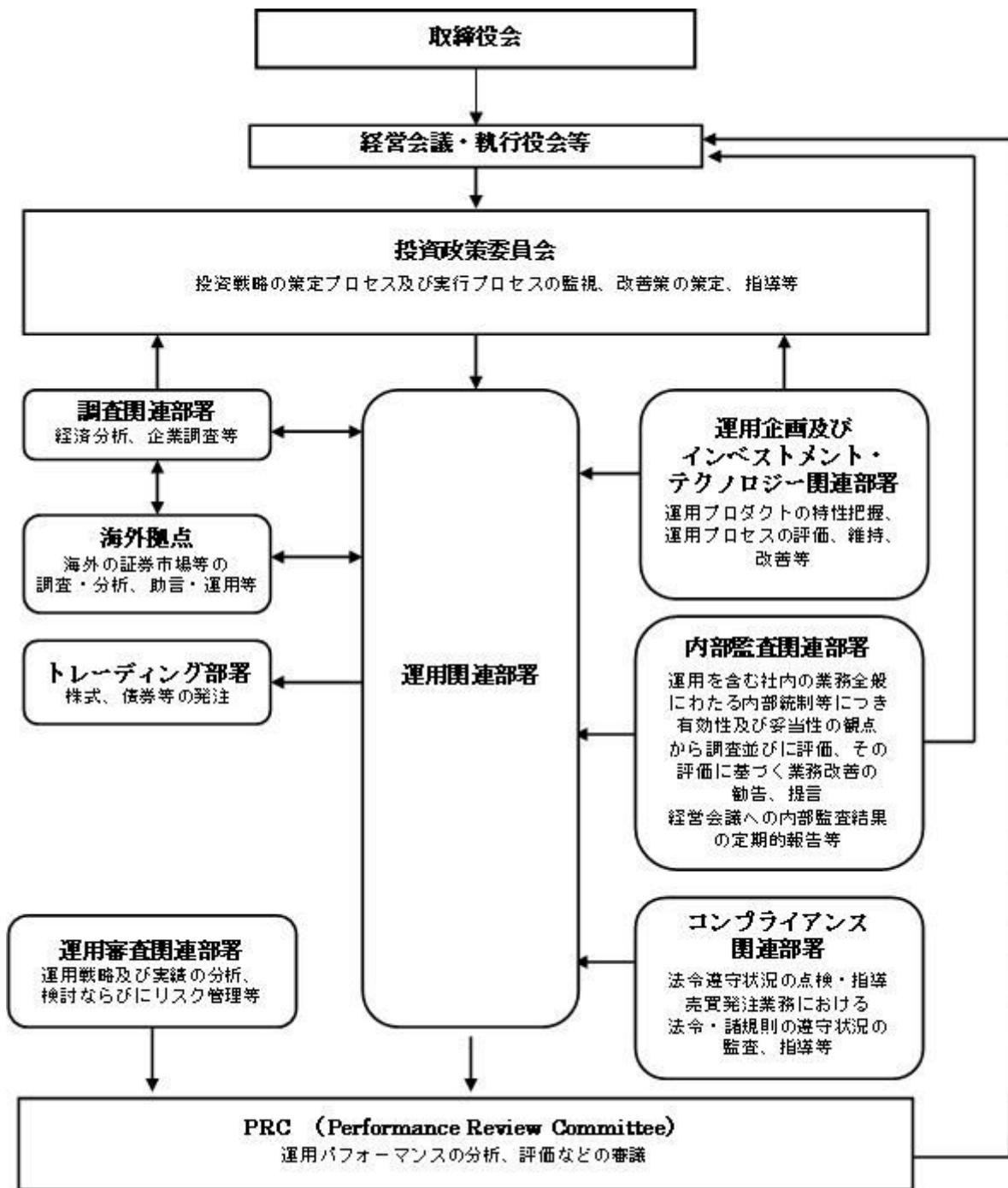
代表執行役・執行役

各執行役は、当社の業務の執行を行います。代表執行役は当社を代表いたします。また取締役会により委任された一定の事項について、代表執行役および執行役で構成される経営会議および執行役会が意思決定を行います。なお、当社は執行役員制度を導入しており、経営会議の構成員には執行役会で選定された執行役員が含まれます。

委員会

取締役3名以上（但し、各委員につき過半数は社外取締役であって執行役でない者）で構成され、イ）指名委員会は、株主総会に提出する取締役の選任・解任・不再任に関する議案の内容を決定し、ロ）報酬委員会は取締役・執行役が受ける個人別の報酬の決定に関する方針を定め、かつそれに従って各報酬の内容を決定し、ハ）監査委員会は取締役・執行役の職務執行の適法性ならびに妥当性に関する監査を行うとともに、株主総会に提出する会計監査人の選任・解任・不再任に関する議案の内容を決定します。

(b)投資信託の運用体制



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部及び投資助言業務を行っています。

委託者の運用する証券投資信託は平成26年2月28日現在次の通りです（ただし、親投資信託を除きます。）。

| 種類 | 本数 | 純資産総額(百万円) |
|-----------|-----|------------|
| 追加型株式投資信託 | 800 | 13,420,423 |

| | | |
|------------|-----|------------|
| 単位型株式投資信託 | 44 | 245,479 |
| 追加型公社債投資信託 | 18 | 6,380,531 |
| 単位型公社債投資信託 | 21 | 267,424 |
| 合計 | 883 | 20,313,857 |

3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

2. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表ならびに中間会計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (平成24年3月31日) | 当事業年度 (平成25年3月31日) |
|---------|----------|-----------------------|-----------------------|
| | | 金額(百万円) | 金額(百万円) |
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | | | |
| 現金・預金 | | 240 | 333 |
| 金銭の信託 | | 50,326 | 51,061 |
| 有価証券 | | 1,800 | 4,500 |
| 短期貸付金 | | 153 | - |
| 前払費用 | | 37 | 29 |
| 未収入金 | | 217 | 271 |
| 未収委託者報酬 | | 8,149 | 8,651 |
| 未収収益 | | 4,200 | 4,224 |
| 繰延税金資産 | | 1,402 | 1,504 |
| その他 | | 14 | 12 |
| 貸倒引当金 | | 6 | 6 |
| 流動資産計 | | 66,535 | 70,582 |
| 固定資産 | | | |

| | | | | | |
|----------|---|--------|--------|--------|---------|
| 有形固定資産 | | | 1,677 | | 1,470 |
| 建物 | 2 | 516 | | 485 | |
| 器具備品 | 2 | 1,161 | | 985 | |
| 無形固定資産 | | | 9,754 | | 8,458 |
| ソフトウェア | | 9,753 | | 8,457 | |
| 電話加入権 | | 1 | | 1 | |
| その他 | | 0 | | 0 | |
| 投資その他の資産 | | | 21,505 | | 21,443 |
| 投資有価証券 | | 6,691 | | 9,061 | |
| 関係会社株式 | | 14,429 | | 12,092 | |
| 従業員長期貸付金 | | 29 | | 29 | |
| 長期差入保証金 | | 57 | | 55 | |
| 長期前払費用 | | 23 | | 19 | |
| その他 | | 273 | | 184 | |
| 貸倒引当金 | | 0 | | 0 | |
| 固定資産計 | | | 32,937 | | 31,373 |
| 資産合計 | | | 99,472 | | 101,956 |

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (平成24年 3月31日) | | 当事業年度 (平成25年 3月31日) | |
|----------------|----------|------------------------|--------|------------------------|--------|
| | | 金額(百万円) | | 金額(百万円) | |
| (負債の部) | | | | | |
| 流動負債 | | | | | |
| 短期借入金 | | | - | | 3,000 |
| 関係会社短期借入金 | | | 8,500 | | 2,000 |
| 預り金 | | | 93 | | 102 |
| 未払金 | 1 | | 6,276 | | 6,481 |
| 未払収益分配金 | | 4 | | 3 | |
| 未払償還金 | | 50 | | 42 | |
| 未払手数料 | | 3,610 | | 3,764 | |
| その他未払金 | | 2,610 | | 2,671 | |
| 未払費用 | 1 | | 6,760 | | 6,979 |
| 未払法人税等 | | | 856 | | 763 |
| 前受収益 | | | 6 | | - |
| 賞与引当金 | | | 2,816 | | 3,109 |
| 流動負債計 | | | 25,310 | | 22,436 |
| 固定負債 | | | | | |
| 退職給付引当金 | | | 2,437 | | 813 |
| 時効後支払損引当金 | | | 489 | | 495 |
| 繰延税金負債 | | | 7 | | 1,640 |
| 固定負債計 | | | 2,934 | | 2,948 |
| 負債合計 | | | 28,244 | | 25,385 |
| (純資産の部) | | | | | |
| 株主資本 | | | | | |
| 資本金 | | | 68,521 | | 71,942 |
| 資本剰余金 | | | 17,180 | | 17,180 |
| 資本剰余金 | | | 11,729 | | 11,729 |
| 資本準備金 | | 11,729 | | 11,729 | |
| 利益剰余金 | | | 39,611 | | 43,032 |
| 利益準備金 | | 685 | | 685 | |
| その他利益剰余金 | | 38,926 | | 42,347 | |

| | | | | |
|--------------|--|--------|--------|---------|
| 別途積立金 | | 24,606 | | 24,606 |
| 繰越利益剰余金 | | 14,320 | | 17,740 |
| 評価・換算差額等 | | | 2,705 | 4,628 |
| その他有価証券評価差額金 | | | 2,693 | 4,659 |
| 繰延ヘッジ損益 | | | 12 | 30 |
| 純資産合計 | | | 71,227 | 76,570 |
| 負債・純資産合計 | | | 99,472 | 101,956 |

(2) 【損益計算書】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日) | | 当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日) | |
|-----------|----------|---|--------|---|--------|
| | | 金額(百万円) | | 金額(百万円) | |
| 営業収益 | | | | | |
| 委託者報酬 | | | 78,412 | | 74,067 |
| 運用受託報酬 | | | 17,784 | | 17,516 |
| その他営業収益 | | | 129 | | 163 |
| 営業収益計 | | | 96,325 | | 91,747 |
| 営業費用 | | | | | |
| 支払手数料 | | | 40,671 | | 37,925 |
| 広告宣伝費 | | | 952 | | 768 |
| 公告費 | | | 0 | | 0 |
| 受益証券発行費 | | | 5 | | 5 |
| 調査費 | | | 19,308 | | 16,591 |
| 調査費 | | 1,108 | | 1,138 | |
| 委託調査費 | | 18,200 | | 15,453 | |
| 委託計算費 | | | 931 | | 903 |
| 営業雑経費 | | | 2,523 | | 2,616 |
| 通信費 | | 213 | | 199 | |
| 印刷費 | | 1,085 | | 1,057 | |
| 協会費 | | 76 | | 76 | |
| 諸経費 | | 1,147 | | 1,282 | |
| 営業費用計 | | | 64,393 | | 58,810 |
| 一般管理費 | | | | | |
| 給料 | | | 9,635 | | 10,039 |
| 役員報酬 | 2 | 252 | | 229 | |
| 給料・手当 | | 6,602 | | 6,696 | |
| 賞与 | | 2,780 | | 3,114 | |
| 交際費 | | | 140 | | 122 |
| 旅費交通費 | | | 473 | | 446 |
| 租税公課 | | | 224 | | 289 |
| 不動産賃借料 | | | 1,309 | | 1,242 |
| 退職給付費用 | | | 1,039 | | 1,067 |
| 固定資産減価償却費 | | | 4,354 | | 4,106 |
| 諸経費 | | | 6,204 | | 6,273 |
| 一般管理費計 | | | 23,381 | | 23,589 |
| 営業利益 | | | 8,550 | | 9,347 |

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) | | 当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | |
|--------------|----------|--|--------|--|--------|
| | | 金額(百万円) | | 金額(百万円) | |
| 営業外収益 | | | | | |
| 受取配当金 | 1 | 4,116 | | 3,002 | |
| 収益分配金 | | 9 | | 0 | |
| 受取利息 | | 3 | | 2 | |
| 金銭の信託運用益 | | 377 | | 1,016 | |
| 為替差益 | | 55 | | 43 | |
| その他 | | 360 | | 331 | |
| 営業外収益計 | | | 4,924 | | 4,396 |
| 営業外費用 | | | | | |
| 支払利息 | 1 | 54 | | 56 | |
| 時効後支払損引当金繰入額 | | 38 | | 9 | |
| その他 | | 11 | | 78 | |
| 営業外費用計 | | | 104 | | 145 |
| 経常利益 | | | 13,370 | | 13,598 |
| 特別利益 | | | | | |
| 投資有価証券等売却益 | | 36 | | 59 | |
| 株式報酬受入益 | | 177 | | 160 | |
| 固定資産売却益 | | - | | 10 | |
| 特別利益計 | | | 214 | | 230 |
| 特別損失 | | | | | |
| 投資有価証券売却損 | | 136 | | 60 | |
| 投資有価証券等評価損 | | 1 | | 9 | |
| 関係会社株式評価損 | | - | | 2,916 | |
| 固定資産除却損 | 3 | 82 | | 118 | |
| 特別損失計 | | | 221 | | 3,105 |
| 税引前当期純利益 | | | 13,363 | | 10,723 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | | 3,625 | | 3,765 |
| 法人税等調整額 | | | 1,228 | | 446 |
| 当期純利益 | | | 8,509 | | 6,510 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) | | 当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | |
|---------|--|--------|--|--------|
| | 株主資本 | | | |
| 資本金 | | | | |
| 当期首残高 | | 17,180 | | 17,180 |
| 当期変動額 | | | | |
| 当期変動額合計 | | | - | - |
| 当期末残高 | | 17,180 | | 17,180 |
| 資本剰余金 | | | | |

| | | |
|---------------------|--------|--------|
| 資本準備金 | | |
| 当期首残高 | 11,729 | 11,729 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 11,729 | 11,729 |
| 資本剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 11,729 | 11,729 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 11,729 | 11,729 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | | |
| 当期首残高 | 685 | 685 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 685 | 685 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | | |
| 当期首残高 | 24,606 | 24,606 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | 24,606 | 24,606 |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 14,077 | 14,320 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 8,267 | 3,090 |
| 当期純利益 | 8,509 | 6,510 |
| 当期変動額合計 | 242 | 3,420 |
| 当期末残高 | 14,320 | 17,740 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 39,369 | 39,611 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 8,267 | 3,090 |
| 当期純利益 | 8,509 | 6,510 |
| 当期変動額合計 | 242 | 3,420 |
| 当期末残高 | 39,611 | 43,032 |
| 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 68,279 | 68,521 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 8,267 | 3,090 |
| 当期純利益 | 8,509 | 6,510 |
| 当期変動額合計 | 242 | 3,420 |
| 当期末残高 | 68,521 | 71,942 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 2,694 | 2,693 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 0 | 1,965 |
| 当期変動額合計 | 0 | 1,965 |

| | | |
|---------------------|--------|--------|
| 当期末残高 | 2,693 | 4,659 |
| 繰延ヘッジ損益 | | |
| 当期首残高 | 69 | 12 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 82 | 43 |
| 当期変動額合計 | 82 | 43 |
| 当期末残高 | 12 | 30 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 当期首残高 | 2,624 | 2,705 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 81 | 1,922 |
| 当期変動額合計 | 81 | 1,922 |
| 当期末残高 | 2,705 | 4,628 |
| 純資産合計 | | |
| 当期首残高 | 70,903 | 71,227 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | 8,267 | 3,090 |
| 当期純利益 | 8,509 | 6,510 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 81 | 1,922 |
| 当期変動額合計 | 324 | 5,342 |
| 当期末残高 | 71,227 | 76,570 |

[重要な会計方針]

| | |
|-------------------------|---|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1)子会社株式及び関連会社株式 ... 移動平均法による原価法 (2) 其他有価証券 時価のあるもの ... 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております) 時価のないもの ... 移動平均法による原価法 |
| 2. デリバティブ取引等の評価基準及び評価方法 | 時価法 |
| 3. 金銭の信託の評価基準及び評価方法 | 時価法 |
| 4. 固定資産の減価償却の方法 | (1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法によっております。 主な耐用年数は以下の通りであります。 建物 38～50年 附属設備 8～15年 構築物 20年 器具備品 4～15年 (2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。ただし、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間に基づく定額法によっております。 |

| | |
|---------------|--|
| 5．引当金の計上基準 | <p>(1) 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 賞与の支払に備えるため、支払見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企业年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 確定給付型企业年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。 退職一時金及び確定給付型企业年金に係る過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> |
| 6．リース取引の処理方法 | <p>リース取引開始日が平成20年4月1日より前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> |
| 7．ヘッジ会計 | <p>(1)ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計は、原則として、時価評価されているヘッジ手段に係る損益を、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで純資産の部において繰り延べる方法によっております。</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 - 為替予約 ヘッジ対象 - 投資有価証券</p> <p>(3)ヘッジ方針 投資有価証券に係る為替変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(4)ヘッジ有効性評価の方法 為替変動リスクのヘッジにつきましては、そのリスク減殺効果を、対応するヘッジ手段ならびにヘッジ対象ごとに定期的に把握し、ヘッジの有効性を確かめております。</p> |
| 8．消費税等の会計処理方法 | <p>消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当期の費用として処理しております。</p> |
| 9．連結納税制度の適用 | <p>連結納税制度を適用しております。</p> |

[会計方針の変更等]

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

[注記事項]

貸借対照表関係

| 前事業年度末 (平成24年3月31日) | 当事業年度末 (平成25年3月31日) |
|--|--|
| 1. 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。 | 1. 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。 |
| 未払金 2,320百万円 | 未払金 2,368百万円 |
| 未払費用 1,267 | 未払費用 1,584 |
| 2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額 | 2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額 |
| 建物 477百万円 | 建物 518百万円 |
| 器具備品 2,303 | 器具備品 2,524 |
| 合計 2,780 | 合計 3,043 |

損益計算書関係

| 前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) | 当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) |
|---|---|
| 1. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。 | 1. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。 |
| 受取配当金 3,776百万円 | 受取配当金 2,922百万円 |
| 支払利息 54 | 支払利息 44 |
| 2. 役員報酬の範囲額 役員報酬は報酬委員会決議に基づき支給されております。 | 2. 役員報酬の範囲額 (同左) |
| 3. 固定資産除却損 | 3. 固定資産除却損 |
| 建物 19百万円 | 建物 5百万円 |
| 器具備品 9 | 器具備品 23 |
| ソフトウェア 53 | ソフトウェア 89 |
| ア | ア |
| 合計 82 | 合計 118 |

株主資本等変動計算書関係

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末株式数 |
|-------|------------|------------|------------|------------|
| 普通株式 | 5,150,693株 | - | - | 5,150,693株 |

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成23年7月11日開催の臨時株主総会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当財産の種類 野村ホールディングス株式会社株式

配当財産の帳簿価額

8,267百万円

| | |
|----------|------------|
| 1株当たり配当額 | 1,605円12銭 |
| 基準日 | 平成23年7月19日 |
| 効力発生日 | 平成23年7月20日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成24年5月16日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

| | |
|---------------|------------|
| 普通株式の配当に関する事項 | |
| 配当金の総額 | 3,090百万円 |
| 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 1株当たり配当額 | 600円 |
| 基準日 | 平成24年3月31日 |
| 効力発生日 | 平成24年6月1日 |

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末株式数 |
|-------|------------|------------|------------|------------|
| 普通株式 | 5,150,693株 | - | - | 5,150,693株 |

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成24年5月16日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

| | |
|---------------|------------|
| 普通株式の配当に関する事項 | |
| 配当金の総額 | 3,090百万円 |
| 1株当たり配当額 | 600円 |
| 基準日 | 平成24年3月31日 |
| 効力発生日 | 平成24年6月1日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成25年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

| | |
|---------------|------------|
| 普通株式の配当に関する事項 | |
| 配当金の総額 | 3,966百万円 |
| 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 1株当たり配当額 | 770円 |
| 基準日 | 平成25年3月31日 |
| 効力発生日 | 平成25年6月21日 |

リース取引関係

| 前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) | 当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) |
|---|--|
| 1. ファイナンス・リース取引 (1)所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの) 該当事項はありません。 | 1. ファイナンス・リース取引 (1)所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの) (同左) |

(2)所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

| | 器具備品 |
|------------|--------|
| 取得価額相当額 | 184百万円 |
| 減価償却累計額相当額 | 163 |
| 減損損失累計額相当額 | - |
| 期末残高相当額 | 21 |

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

| | |
|----------------|-------|
| 未経過リース料期末残高相当額 | |
| 1年以内 | 22百万円 |
| 1年超 | - |
| 合計 | 22 |
| リース資産減損勘定期末残高 | -百万円 |

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

| | |
|---------------|-------|
| 支払リース料 | 75百万円 |
| リース資産減損勘定の取崩額 | - |
| 減価償却費相当額 | 70 |
| 支払利息相当額 | 1 |
| 減損損失 | - |

減価償却費相当額の算定方法
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

| | |
|---------|-------|
| 未経過リース料 | |
| 1年以内 | 15百万円 |
| 1年超 | 24 |
| 合計 | 40 |

(2)所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

| | 器具備品 |
|------------|------|
| 取得価額相当額 | -百万円 |
| 減価償却累計額相当額 | - |
| 減損損失累計額相当額 | - |
| 期末残高相当額 | - |

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

| | |
|----------------|------|
| 未経過リース料期末残高相当額 | |
| 1年以内 | -百万円 |
| 1年超 | - |
| 合計 | - |
| リース資産減損勘定期末残高 | -百万円 |

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

| | |
|---------------|-------|
| 支払リース料 | 22百万円 |
| リース資産減損勘定の取崩額 | - |
| 減価償却費相当額 | 21 |
| 支払利息相当額 | 0 |
| 減損損失 | - |

減価償却費相当額の算定方法
(同左)

利息相当額の算定方法
(同左)

2. オペレーティング・リース取引

| | |
|---------|------|
| 未経過リース料 | |
| 1年以内 | 3百万円 |
| 1年超 | 2 |
| 合計 | 6 |

金融商品関係

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自らが運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有しております。直接または特定金銭信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資有価証券保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社からの短期借入による方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物、スワップ取引などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用調査本部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

| | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|------------------|----------|---------|--------|
| (1)現金・預金 | 240 | 240 | - |
| (2)金銭の信託 | 50,326 | 50,326 | - |
| (3)短期貸付金 | 153 | 153 | - |
| (4)未収委託者報酬 | 8,149 | 8,149 | - |
| (5)有価証券及び投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 7,725 | 7,725 | - |
| (6)関係会社株式 | 3,064 | 89,073 | 86,009 |
| 資産計 | 69,658 | 155,667 | 86,009 |
| (7)短期借入金 | - | - | - |
| (8)関係会社短期借入金 | 8,500 | 8,500 | - |
| (9)未払金 | 6,276 | 6,276 | - |
| 未払収益分配金 | 4 | 4 | - |
| 未払償還金 | 50 | 50 | - |
| 未払手数料 | 3,610 | 3,610 | - |
| その他未払金 | 2,610 | 2,610 | - |
| (10)未払費用 | 6,760 | 6,760 | - |
| (11)未払法人税等 | 856 | 856 | - |
| 負債計 | 22,393 | 22,393 | - |
| (12)デリバティブ取引(*) | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | - | - | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | 10 | 10 | - |
| デリバティブ取引計 | 10 | 10 | - |

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金・預金、(3) 短期貸付金、(4) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。ただし、短期貸付金は為替予約等の振当処理の対象とされており、円貨建債権とみて当該帳簿価額を以って時価としております。「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価格、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

その他有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価格によっております。また、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 関係会社株式

取引所の価格によっております。

(8) 関係会社短期借入金、(9) 未払金、(10) 未払費用、(11) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(12) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

注2：非上場株式等（貸借対照表計上額：投資有価証券766百万円、関係会社株式11,365百万円）は、市場価格がなく、かつキャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、当事業年度において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

注3：金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----|------|-------------|--------------|------|
| 預金 | 238 | - | - | - |

| | | | | |
|--------------|--------|---|---|---|
| 金銭の信託 | 50,326 | - | - | - |
| 短期貸付金 | 153 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 8,149 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 | 1,800 | 1 | - | - |
| 合計 | 60,668 | 1 | - | - |

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有しております。直接または特定金銭信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資有価証券保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

（2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物、スワップ取引などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用調査本部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（単位：百万円）

| | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|----------|----------|--------|----|
| (1)現金・預金 | 333 | 333 | - |
| (2)金銭の信託 | 51,061 | 51,061 | - |
| (3)短期貸付金 | - | - | - |

| | | | |
|------------------|--------|---------|---------|
| (4)未収委託者報酬 | 8,651 | 8,651 | - |
| (5)有価証券及び投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 12,678 | 12,678 | - |
| (6)関係会社株式 | 3,064 | 104,822 | 101,758 |
| 資産計 | 75,789 | 177,548 | 101,758 |
| (7)短期借入金 | 3,000 | 3,000 | - |
| (8)関係会社短期借入金 | 2,000 | 2,000 | - |
| (9)未払金 | 6,481 | 6,481 | - |
| 未払収益分配金 | 3 | 3 | - |
| 未払償還金 | 42 | 42 | - |
| 未払手数料 | 3,764 | 3,764 | - |
| その他未払金 | 2,671 | 2,671 | - |
| (10)未払費用 | 6,979 | 6,979 | - |
| (11)未払法人税等 | 763 | 763 | - |
| 負債計 | 19,224 | 19,224 | - |
| (12)デリバティブ取引（*） | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | - | - | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | 3 | 3 | - |
| デリバティブ取引計 | 3 | 3 | - |

（*）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金・預金、(4) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価格、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

 その他有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価格によっております。また、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 関係会社株式

取引所の価格によっております。

(7) 短期借入金、(8) 関係会社短期借入金、(9) 未払金、(10) 未払費用、(11) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(12) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

注2：非上場株式等（貸借対照表計上額：投資有価証券883百万円、関係会社株式9,028百万円）は、市場価格がなく、かつキャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、当事業年度において、非上場株式について2,916百万円減損処理を行っております。

注3：金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|--------------|--------|-------------|--------------|------|
| 預金 | 333 | - | - | - |
| 金銭の信託 | 51,061 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 8,651 | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 | 4,500 | - | - | - |
| 合計 | 64,547 | - | - | - |

有価証券関係

前事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1．売買目的有価証券(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

2．満期保有目的の債券(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

3．子会社株式及び関連会社株式(平成24年3月31日)

| 区分 | 貸借対照表 計上額 (百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------|-----------------------|-------------|-------------|
| 関連会社株式 | 3,064 | 89,073 | 86,009 |
| 合計 | 3,064 | 89,073 | 86,009 |

4．その他有価証券(平成24年3月31日)

| 区分 | 貸借対照表 計上額 (百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----|-----------------------|---------------|-------------|
|----|-----------------------|---------------|-------------|

| | | | |
|----------------------|-------|-------|-------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 4,624 | 282 | 4,341 |
| 小計 | 4,624 | 282 | 4,341 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | | | |
| 投資信託(1) | 1,300 | 1,431 | 130 |
| 譲渡性預金 | 1,800 | 1,800 | - |
| 小計 | 3,100 | 3,231 | 130 |
| 合計 | 7,725 | 3,514 | 4,210 |

- (1) 当事業年度末において、投資有価証券に係る為替変動リスクをヘッジするための為替予約取引についてヘッジ会計を適用しております。対応する繰延ヘッジ利益は12百万円（税効果会計適用後）であり、貸借対照表に計上しております。

5. 事業年度中に売却したその他有価証券（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

| 区分 | 売却額(百万円) | 売却益の合計額(百万円) | 売却損の合計額(百万円) |
|------|----------|--------------|--------------|
| 株式 | 40 | 1 | 26 |
| 投資信託 | 1,343 | - | 110 |
| 合計 | 1,384 | 1 | 136 |

当事業年度（自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日）

1. 売買目的有価証券(平成25年 3月31日)

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券(平成25年 3月31日)

該当事項はありません。

3. 子会社株式及び関連会社株式(平成25年 3月31日)

| 区分 | 貸借対照表計上額 (百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------|-------------------|-------------|-------------|
| 関連会社株式 | 3,064 | 104,822 | 101,758 |
| 合計 | 3,064 | 104,822 | 101,758 |

4. その他有価証券(平成25年 3月31日)

| 区分 | 貸借対照表計上額 (百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|---------------------|-------------------|---------------|-------------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 7,534 | 282 | 7,251 |
| 小計 | 7,534 | 282 | 7,251 |

| | | | |
|----------------------|--------|-------|-------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | | | |
| 投資信託(1) | 644 | 645 | 0 |
| 譲渡性預金 | 4,500 | 4,500 | - |
| 小計 | 5,144 | 5,145 | 0 |
| 合計 | 12,678 | 5,427 | 7,250 |

- (1) 当事業年度末において、投資有価証券に係る為替変動リスクをヘッジするための為替予約取引についてヘッジ会計を適用しております。対応する繰延ヘッジ損失は30百万円（税効果会計適用後）であり、貸借対照表に計上しております。

5. 事業年度中に売却したその他有価証券（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

| 区分 | 売却額(百万円) | 売却益の合計額(百万円) | 売却損の合計額(百万円) |
|------|----------|--------------|--------------|
| 株式 | 21 | 6 | - |
| 投資信託 | 708 | - | 60 |
| 合計 | 730 | 6 | 60 |

デリバティブ取引関係

前事業年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 契約額等のうち1年超 | 時価 | 当該時価の算定方法 |
|------------|--------------|---------|-------|------------|---------|--------------|
| 原則的処理方法 | 為替予約取引 | 投資信託 | 1,308 | - | 10 | 先物為替相場によっている |
| 為替予約等の振当処理 | 為替予約取引 | 短期貸付金 | 153 | - | (*1) - | - |
| 合計 | | | 1,462 | - | (*1) 10 | - |

(*1) 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている短期貸付金と一体として処理されるため、その時価は当該短期貸付金の時価に含めて記載しております。

当事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 契約額等のうち1年超 | 時価 | 当該時価の算定方法 |
|----------|--------------|---------|------|------------|----|------------|
| 原則的処理方法 | 為替予約取引 | 投資信託 | 647 | - | 3 | 先物為替相場によつて |
| 合 計 | | | 647 | - | 3 | - |

退職給付関係

| 前事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日) | |
|---|---|
| 1. 採用している退職給付制度の概要 当社は、確定給付型の制度として確定給付型企業年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。 | |
| 2. 退職給付債務に関する事項(平成24年 3月31日) | |
| イ. 退職給付債務 | 13,948百万円 |
| ロ. 年金資産 | 9,508 |
| ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ) | 4,440 |
| ニ. 会計基準変更時差異の未処理額 | |
| ホ. 未認識数理計算上の差異 | 2,575 |
| ヘ. 未認識過去勤務債務(債務の増額) | 572 |
| ト. 貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ+ヘ) | 2,437 |
| チ. 前払年金費用 | |
| リ. 退職給付引当金(ト-チ) | 2,437 |
| 3. 退職給付費用に関する事項(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日) | |
| イ. 勤務費用 | 543百万円 |
| ロ. 利息費用 | 272 |
| ハ. 期待運用収益 | 186 |
| ニ. 会計基準変更時差異の費用処理額 | |
| ホ. 数理計算上の差異の費用処理額 | 280 |
| ヘ. 過去勤務債務の費用処理額 | 40 |
| ト. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ) | 869 |
| チ. その他(注) | 170 |
| 計 | 1,039 |
| (注) 確定拠出年金への掛金支払額等であります。 | |
| 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項 | |
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ロ. 割引率 | 1.8% |
| ハ. 期待運用収益率 | 2.5% |
| ニ. 過去勤務債務の額の処理年数 | 16年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、費用処理することとしております。) |
| ホ. 数理計算上の差異の処理年数 | (1) 退職一時金に係るもの 1年(発生時の翌期に費用処理することとしております。) (2) 退職年金に係るもの 16年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌期から費用処理することとしております。) |
| ヘ. 会計基準変更時差異の処理年数 | 該当はありません。 |

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項(平成25年3月31日)

| | |
|------------------------|-----------|
| イ. 退職給付債務 | 15,209百万円 |
| ロ. 年金資産 | 12,456 |
| ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ) | 2,752 |
| ニ. 会計基準変更時差異の未処理額 | |
| ホ. 未認識数理計算上の差異 | 2,471 |
| ヘ. 未認識過去勤務債務(債務の増額) | 532 |
| ト. 貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ+ヘ) | 813 |
| チ. 前払年金費用 | |
| リ. 退職給付引当金(ト-チ) | 813 |

3. 退職給付費用に関する事項(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

| | |
|------------------------|--------|
| イ. 勤務費用 | 608百万円 |
| ロ. 利息費用 | 251 |
| ハ. 期待運用収益 | 237 |
| ニ. 会計基準変更時差異の費用処理額 | |
| ホ. 数理計算上の差異の費用処理額 | 304 |
| ヘ. 過去勤務債務の費用処理額 | 40 |
| ト. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ) | 885 |
| チ. その他(注) | 170 |
| 計 | 1,055 |

(注) 確定拠出年金への掛金支払額等であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | |
|-------------------|---|
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ロ. 割引率 | 1.5% |
| ハ. 期待運用収益率 | 2.5% |
| ニ. 過去勤務債務の額の処理年数 | 16年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、費用処理することとしております。) |
| ホ. 数理計算上の差異の処理年数 | (1) 退職一時金に係るもの 1年(発生時の翌期に費用処理することとしております。) (2) 退職年金に係るもの 16年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌期から費用処理することとしております。) |
| ヘ. 会計基準変更時差異の処理年数 | 該当はありません。 |

税効果会計関係

| | |
|------------------------|------------------------|
| 前事業年度末 (平成24年3月31日) | 当事業年度末 (平成25年3月31日) |
|------------------------|------------------------|

| 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | 百万円 | 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 | 百万円 |
|--|-------|--|-------|
| 繰延税金資産 | | 繰延税金資産 | |
| 賞与引当金 | 1,070 | 賞与引当金 | 1,181 |
| 関係会社株式評価減 | - | 関係会社株式評価減 | 1,050 |
| 所有株式税務簿価通算差異 | 776 | 所有株式税務簿価通算差異 | 776 |
| 投資有価証券評価減 | 501 | 投資有価証券評価減 | 501 |
| ゴルフ会員権評価減 | 430 | ゴルフ会員権評価減 | 408 |
| 退職給付引当金 | 877 | 退職給付引当金 | 292 |
| 減価償却超過額 | 243 | 減価償却超過額 | 208 |
| 未払事業税 | 166 | 未払事業税 | 184 |
| 時効後支払損引当金 | 176 | 時効後支払損引当金 | 178 |
| 子会社株式売却損 | 172 | 子会社株式売却損 | 172 |
| 未払社会保険料 | 80 | 未払社会保険料 | 90 |
| 繰延ヘッジ損失 | - | 繰延ヘッジ損失 | 18 |
| その他 | 68 | その他 | 124 |
| 繰延税金資産小計 | 4,564 | 繰延税金資産小計 | 5,189 |
| 評価性引当金 | 1,650 | 評価性引当金 | 2,704 |
| 繰延税金資産計 | 2,913 | 繰延税金資産計 | 2,485 |
| 繰延税金負債 | | 繰延税金負債 | |
| 有価証券評価差額金 | 1,511 | 有価証券評価差額金 | 2,620 |
| 繰延ヘッジ利益 | 7 | 繰延ヘッジ利益 | - |
| 繰延税金負債計 | 1,518 | 繰延税金負債計 | 2,620 |
| 繰延税金資産(純額) | 1,394 | 繰延税金負債(純額) | 135 |
| 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 | | 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 | |
| 法定実効税率 | 41.0% | 法定実効税率 | 38.0% |
| (調整) | | (調整) | |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.3% | 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.5% |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 11.3% | 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 10.1% |
| 住民税等均等割 | 0.0% | 住民税等均等割 | 0.0% |
| タックスヘイブン税制 | 4.2% | タックスヘイブン税制 | 2.1% |
| 外国税額控除 | 0.0% | 外国税額控除 | 0.0% |
| 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | 2.4% | 税率変更による期末繰延税金資産の減額修正 | -% |
| 関係会社株式評価減 | -% | 関係会社株式評価減 | 10.3% |
| その他 | 0.3% | その他 | 1.6% |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 36.3% | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 39.2% |
| 3. 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 | | | |
| <p>「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後開始する事業年度より、法人税率が30%から25.5%に引き下げられました。また、「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が同日に公布され、平成24年4月1日から平成27年3月31日までの期間(指定期間)内に開始する事業年度(3年間)は、各課税事業年度の基準法人税額の10%が復興特別法人税として課税されることになりました。これらの改正により、繰延税金資産および繰延税金負債を計算する法定実効税率は平成24年4月1日から平成27年3月31日までに解消すると見込まれる一時差異等については38%、平成27年4月1日以降に解消すると見込まれる一時差異等については36%となっております。</p> <p>この改正の影響により、繰延税金資産の純額が108百万円減少し、法人税等調整額は322百万円増加しております。</p> | | | |

セグメント情報等

前事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

当事業年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

関連当事者情報

前事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1. 関連当事者との取引

(ア) 親会社及び法人主要株主等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|----------------|--------|------------------|-----------|-----------------------|----------------------|-------------|-----------|-------------------|-----------|
| 親会社 | 野村ホールディングス株式会社 | 東京都中央区 | 594,492 (百万円) | 持株会社 | (被所有) 直接 100.0% | 資産の賃貸借及び購入等 役員の兼任 | 資金の借入(*1) | 90,500 | 関係会社 短期 借入金 | 8,500 |
| | | | | | | | 資金の返済 | 90,000 | | |
| | | | | | | | 借入金利息の支払 | 54 | 未払費用 | 2 |
| | | | | | | | 金銭信託の移管(*2) | 9,258 | - | - |
| | | | | | | | 株式交換(*3) | 8,267 | - | - |

(イ) 子会社等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|------|-------------|---------|-----------------|-----------|---------------------|------------|-----------------------|-----------|------|-----------|
| 関連会社 | 株式会社野村総合研究所 | 東京都千代田区 | 18,600 (百万円) | 情報サービス業 | (所有) 直接 21.6% | サービス・製品の購入 | 自社利用のソフトウェア開発の委託等(*4) | 5,887 | 未払費用 | 478 |

(ウ) 兄弟会社等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-------------|----------------------------|--------|-----------------|-----------|----------------|---|------------------------|-----------|-------|-----------|
| 親会社の 子会社 | 野村証券株式会社 | 東京都中央区 | 10,000 (百万円) | 証券業 | | 当社投資信託の募集の取扱及び売上の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等 役員の兼任 | 投資信託に係る事務代行手数料の支払(*5) | 33,134 | 未払手数料 | 2,987 |
| 親会社の 子会社 | 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社 | 東京都中央区 | 400 (百万円) | 投資顧問業 | | 当社投資信託の運用委託 役員の兼任 | 投資信託の運用に係る投資顧問料の支払(*6) | 2,126 | 未払費用 | 787 |

(エ) 役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (* 1) 資金の借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
- (* 2) 譲渡代金は、平成24年1月17日における時価評価金額としています。
- (* 3) 当社が保有する野村土地建物株式会社株式と引き換えに野村ホールディングス株式会社株式を取得いたしました。交換は、第三者算定機関の算定による交換比率に基づいております。
- (* 4) ソフトウェア開発については、調査・研究に要する費用や開発工数等を勘案し、総合的に決定しております。
- (* 5) 投資信託に係る事務代手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。
- (* 6) 投資信託の運用に係る投資顧問料については、一般取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

野村ホールディングス(株)（東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

当事業年度において、重要な関連会社は(株)野村総合研究所であり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

| | | (百万円) |
|----------|---------|------------|
| | | (株)野村総合研究所 |
| 流動資産合計 | 166,580 | |
| 固定資産合計 | 229,654 | |
| 流動負債合計 | 72,440 | |
| 固定負債合計 | 74,932 | |
| 純資産合計 | 248,861 | |
| 売上高 | 320,289 | |
| 税引前当期純利益 | 62,962 | |
| 当期純利益 | 41,340 | |

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(ア) 親会社及び法人主要株主等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|-----|----------------|--------|------------------|-----------|----------------|------------------|-----------|-----------|-------|-----------|
| 親会社 | 野村ホールディングス株式会社 | 東京都中央区 | 594,492 (百万円) | 持株会社 | (被所有)直接100.0% | 資産の賃貸借及び購入等役員の兼任 | 資金の借入(*1) | 59,500 | 短期借入金 | 2,000 |
| | | | | | | | 資金の返済 | 66,000 | | |
| | | | | | | | 借入金利息の支払 | 44 | 未払費用 | 0 |

(イ) 子会社等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|------|-------------|---------|-----------------|-----------|----------------|------------|-----------------------|-----------|------|-----------|
| 関連会社 | 株式会社野村総合研究所 | 東京都千代田区 | 18,600 (百万円) | 情報サービス業 | (所有)直接21.6% | サービス・製品の購入 | 自社利用のソフトウェア開発の委託等(*2) | 4,433 | 未払費用 | 706 |

(ウ) 兄弟会社等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(百万円) | 科目 | 期末残高(百万円) |
|---------|----------------------------|---------|-----------------|-----------|----------------|--|------------------------|-----------|-------|-----------|
| 親会社の子会社 | 野村証券株式会社 | 東京都中央区 | 10,000 (百万円) | 証券業 | | 当社投資信託の募集の取扱及び売上の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等 | 投資信託に係る事務代行手数料の支払(*3) | 30,983 | 未払手数料 | 3,105 |
| 親会社の子会社 | 野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー株式会社 | 東京都中央区 | 400 (百万円) | 投資顧問業 | | 当社投資信託の運用委託役員の兼任 | 投資信託の運用に係る投資顧問料の支払(*4) | 1,941 | 未払費用 | 827 |
| 親会社の子会社 | 野村信託銀行株式会社 | 東京都千代田区 | 30,000 (百万円) | 信託銀行業 | | 資産の賃貸借及び購入等役員の兼任 | 資金の借入(*1) | 3,000 | 短期借入金 | 3,000 |
| | | | | | | | 借入金利息の支払 | 12 | 未払費用 | - |

(エ) 役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(*1) 資金の借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

(*2) ソフトウェア開発については、調査・研究に要する費用や開発工数等を勘案し、総合的に決定しております。

(*3) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

(*4) 投資信託の運用に係る投資顧問料については、一般取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

野村ホールディングス(株) (東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

当事業年度において、重要な関連会社は(株)野村総合研究所であり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

| (百万円) | |
|------------|---------|
| (株)野村総合研究所 | |
| 流動資産合計 | 173,316 |
| 固定資産合計 | 239,585 |
| 流動負債合計 | 119,842 |
| 固定負債合計 | 20,742 |
| 純資産合計 | 272,316 |
| 売上高 | 337,340 |
| 税引前当期純利益 | 34,113 |
| 当期純利益 | 21,544 |

1株当たり情報

| 前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) | | 当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) | |
|---|------------|---|------------|
| 1株当たり純資産額 | 13,828円81銭 | 1株当たり純資産額 | 14,866円12銭 |
| 1株当たり当期純利益 | 1,652円20銭 | 1株当たり当期純利益 | 1,264円08銭 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 | | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 | |
| 1株当たり当期純利益の算定上の基礎 | | 1株当たり当期純利益の算定上の基礎 | |
| 損益計算書上の当期純利益 | 8,509百万円 | 損益計算書上の当期純利益 | 6,510百万円 |
| 普通株式に係る当期純利益 | 8,509百万円 | 普通株式に係る当期純利益 | 6,510百万円 |
| 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 | | 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 | |
| 普通株式の期中平均株式数 | 5,150,693株 | 普通株式の期中平均株式数 | 5,150,693株 |

中間財務諸表

中間貸借対照表

| | | 平成25年9月30日現在 |
|---------|----------|--------------|
| 区分 | 注記 番号 | 金額(百万円) |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | | 212 |
| 金銭の信託 | | 40,345 |
| 有価証券 | | 9,300 |
| 未収委託者報酬 | | 9,996 |
| 未収収益 | | 5,897 |
| 繰延税金資産 | | 1,221 |
| その他 | | 523 |
| 貸倒引当金 | | 7 |

| | | |
|----------|---|---------|
| 流動資産計 | | 67,488 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1 | 1,503 |
| 無形固定資産 | | 8,073 |
| ソフトウェア | | 8,072 |
| その他 | | 1 |
| 投資その他の資産 | | 24,943 |
| 投資有価証券 | | 12,512 |
| 関係会社株式 | | 12,092 |
| 前払年金費用 | | 13 |
| その他 | | 324 |
| 固定資産計 | | 34,520 |
| 資産合計 | | 102,009 |

| | | 平成25年9月30日現在 |
|--------------|----------|--------------|
| 区分 | 注記 番号 | 金額(百万円) |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | | |
| 未払収益分配金 | | 2 |
| 未払償還金 | | 40 |
| 未払手数料 | | 4,303 |
| その他未払金 | 2 | 1,997 |
| 未払費用 | | 6,705 |
| 未払法人税等 | | 1,055 |
| 賞与引当金 | | 1,989 |
| その他 | | 108 |
| 流動負債計 | | 16,201 |
| 固定負債 | | |
| 時効後支払損引当金 | | 504 |
| 繰延税金負債 | | 3,124 |
| 固定負債計 | | 3,628 |
| 負債合計 | | 19,830 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | | 75,436 |
| 資本金 | | 17,180 |
| 資本剰余金 | | 11,729 |
| 資本準備金 | | 11,729 |
| 利益剰余金 | | 46,526 |
| 利益準備金 | | 685 |
| その他利益剰余金 | | 45,841 |
| 別途積立金 | | 24,606 |
| 繰越利益剰余金 | | 21,235 |
| 評価・換算差額等 | | 6,741 |
| その他有価証券評価差額金 | | 6,809 |
| 繰延ヘッジ損益 | | 67 |
| 純資産合計 | | 82,178 |
| 負債・純資産合計 | | 102,009 |

中間損益計算書

| | | 自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日 |
|------|----------|-----------------------------|
| 区分 | 注記 番号 | 金額(百万円) |
| 営業収益 | | |

| | | |
|--------------|---|--------|
| 委託者報酬 | | 43,970 |
| 運用受託報酬 | | 11,575 |
| その他営業収益 | | 90 |
| 営業収益計 | | 55,636 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | | 22,457 |
| 調査費 | | 9,742 |
| その他営業費用 | | 2,266 |
| 営業費用計 | | 34,466 |
| 一般管理費 | 1 | 12,258 |
| 営業利益 | | 8,912 |
| 営業外収益 | 2 | 2,738 |
| 営業外費用 | 3 | 839 |
| 経常利益 | | 10,811 |
| 特別利益 | 4 | 152 |
| 特別損失 | 5 | 5 |
| 税引前中間純利益 | | 10,958 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 2,918 |
| 法人税等調整額 | | 579 |
| 中間純利益 | | 7,460 |

中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間

(単位：百万円)

| | 自 平成25年4月1日 | 至 平成25年9月30日 |
|-----------|-------------|--------------|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 当期首残高 | | 17,180 |
| 当中間期変動額 | | |
| 当中間期変動額合計 | | - |
| 当中間期末残高 | | 17,180 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 当期首残高 | | 11,729 |
| 当中間期変動額 | | |
| 当中間期変動額合計 | | - |
| 当中間期末残高 | | 11,729 |

| | |
|--------------|--------|
| 資本剰余金合計 | |
| 当期首残高 | 11,729 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 11,729 |
| 利益剰余金 | |
| 利益準備金 | |
| 当期首残高 | 685 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 685 |
| その他利益剰余金 | |
| 別途積立金 | |
| 当期首残高 | 24,606 |
| 当中間期変動額 | |
| 当中間期変動額合計 | - |
| 当中間期末残高 | 24,606 |
| 繰越利益剰余金 | |
| 当期首残高 | 17,740 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 3,966 |
| 中間純利益 | 7,460 |
| 当中間期変動額合計 | 3,494 |
| 当中間期末残高 | 21,235 |
| 利益剰余金合計 | |
| 当期首残高 | 43,032 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 3,966 |
| 中間純利益 | 7,460 |
| 当中間期変動額合計 | 3,494 |
| 当中間期末残高 | 46,526 |
| 株主資本合計 | |
| 当期首残高 | 71,942 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 3,966 |
| 中間純利益 | 7,460 |
| 当中間期変動額合計 | 3,494 |
| 当中間期末残高 | 75,436 |
| 評価・換算差額等 | |
| その他有価証券評価差額金 | |
| 当期首残高 | 4,659 |
| 当中間期変動額 | |

| | |
|-----------------------|--------|
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 2,150 |
| 当中間期変動額合計 | 2,150 |
| 当中間期末残高 | 6,809 |
| 繰延ヘッジ損益 | |
| 当期首残高 | 30 |
| 当中間期変動額 | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 36 |
| 当中間期変動額合計 | 36 |
| 当中間期末残高 | 67 |
| 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | 4,628 |
| 当中間期変動額 | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 2,113 |
| 当中間期変動額合計 | 2,113 |
| 当中間期末残高 | 6,741 |
| 純資産合計 | |
| 当期首残高 | 76,570 |
| 当中間期変動額 | |
| 剰余金の配当 | 3,966 |
| 中間純利益 | 7,460 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 2,113 |
| 当中間期変動額合計 | 5,607 |
| 当中間期末残高 | 82,178 |

[重要な会計方針]

| | |
|------------------------|---|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法 | 子会社株式及び関連会社株式...移動平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの...中間決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております) 時価のないもの...移動平均法による原価法 |
| 2 デリバティブ取引等の評価基準及び評価方法 | 時価法 |
| 3 金銭の信託の評価基準及び評価方法 | 時価法 |
| 4 固定資産の減価償却の方法 | (1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法によっております。 (2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。ただし、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間に基づく定額法によっております。 |

| | |
|------------|---|
| 5 引当金の計上基準 | <p>(1) 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 賞与の支払に備えるため、支払見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。 退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> |
|------------|---|

| | |
|-------------|---|
| 6 ヘッジ会計の方法 | <p>(1) ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計は、原則として、時価評価されているヘッジ手段に係る損益を、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで純資産の部において繰り延べる方法によっております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 - 為替予約 ヘッジ対象 - 投資有価証券</p> <p>(3) ヘッジ方針 投資有価証券に係る為替変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 為替変動リスクのヘッジにつきましては、そのリスク減殺効果を、対応するヘッジ手段ならびにヘッジ対象ごとに定期的に把握し、ヘッジの有効性を確かめております。</p> |
| 7 消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。 |
| 8 連結納税制度の適用 | 連結納税制度を適用しております。 |

[注記事項]

中間貸借対照表関係

| | |
|---|----------|
| 平成25年9月30日現在 | |
| 1 有形固定資産の減価償却累計額 | 3,217百万円 |
| 2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他未払金」に含めて表示しております。 | |

中間損益計算書関係

| | | 自 平成25年4月1日 | 至 平成25年9月30日 |
|---|---------------|-------------|--------------|
| 1 | 減価償却実施額 | | |
| | 有形固定資産 | 173 | 百万円 |
| | 無形固定資産 | 1,637 | 百万円 |
| | 長期前払費用 | 4 | 百万円 |
| 2 | 営業外収益のうち主要なもの | | |
| | 受取配当金 | 2,551 | 百万円 |
| 3 | 営業外費用のうち主要なもの | | |
| | 支払利息 | 11 | 百万円 |
| | 金銭の信託運用損 | 715 | 百万円 |
| 4 | 特別利益の内訳 | | |
| | 株式報酬受入益 | 152 | 百万円 |
| 5 | 特別損失の内訳 | | |
| | 投資有価証券評価損 | 2 | 百万円 |
| | 固定資産除却損 | 3 | 百万円 |

中間株主資本等変動計算書関係

| | | | | | 自 平成25年4月1日 | 至 平成25年9月30日 |
|---|--------------------------------------|------------|----|------------|-------------|--------------|
| 1 | 発行済株式に関する事項 | | | | | |
| | 株式の種類 | 当事業年度期首 | 増加 | 減少 | 当中間会計期間末 | |
| | 普通株式 | 5,150,693株 | - | - | 5,150,693株 | |
| 2 | 配当に関する事項 | | | | | |
| | 配当金支払額 | | | | | |
| | 平成25年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。 | | | | | |
| | ・普通株式の配当に関する事項 | | | | | |
| | (1) 配当金の総額 | | | 3,966 | 百万円 | |
| | (2) 1株当たり配当額 | | | 770 | 円 | |
| | (3) 基準日 | | | 平成25年3月31日 | | |
| | (4) 効力発生日 | | | 平成25年6月21日 | | |

金融商品関係

当中間会計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成25年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

| | 中間貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|--|------------|----|----|
| | | | |

| | | | |
|------------------|--------|---------|---------|
| (1)現金・預金 | 212 | 212 | - |
| (2)金銭の信託 | 40,345 | 40,345 | - |
| (3)未収委託者報酬 | 9,996 | 9,996 | - |
| (4)有価証券及び投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 20,832 | 20,832 | - |
| (5)関係会社株式 | 3,064 | 147,949 | 144,885 |
| 資産計 | 74,450 | 219,336 | 144,885 |
| (6)未払金 | 6,343 | 6,343 | - |
| 未払収益分配金 | 2 | 2 | - |
| 未払償還金 | 40 | 40 | - |
| 未払手数料 | 4,303 | 4,303 | - |
| その他未払金 | 1,997 | 1,997 | - |
| (7)未払費用 | 6,705 | 6,705 | - |
| (8)未払法人税等 | 1,055 | 1,055 | - |
| 負債計 | 14,104 | 14,104 | - |
| (9)デリバティブ取引（*） | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | - | - | - |
| ヘッジ会計が適用されているもの | 6 | 6 | - |
| デリバティブ取引計 | 6 | 6 | - |

（*）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金・預金、(3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価格、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

 その他有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価格によっております。また、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(5) 関係会社株式

取引所の価格によっております。

(6) 未払金、(7) 未払費用、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(9) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

注2：非上場株式等（中間貸借対照表計上額：投資有価証券979百万円、関係会社株式9,028百万円）は、市場価格がなく、かつキャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

有価証券関係

当中間会計期間末（平成25年9月30日）

1．満期保有目的の債券(平成25年9月30日)

該当事項はありません。

2．子会社株式及び関連会社株式(平成25年9月30日)

| 区分 | 中間貸借対照表 計上額 (百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------|-------------------------|-------------|-------------|
| 関連会社株式 | 3,064 | 147,949 | 144,885 |
| 合計 | 3,064 | 147,949 | 144,885 |

3．その他有価証券(平成25年9月30日)

| 区分 | 中間貸借対照表 計上額 (百万円) | 取得原価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----------------------------|-------------------------|---------------|-------------|
| 中間貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 10,828 | 282 | 10,545 |
| 投資信託(1) | 702 | 644 | 58 |
| 小計 | 11,531 | 926 | 10,604 |
| 中間貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの | | | |
| 株式 | - | - | - |
| 投資信託 | 0 | 1 | 0 |
| 譲渡性預金 | 9,300 | 9,300 | - |
| 小計 | 9,300 | 9,301 | 0 |
| 合計 | 20,832 | 10,227 | 10,604 |

- (1) 当中間会計期間において、投資有価証券に係る為替変動リスクをヘッジするための為替予約取引についてヘッジ会計を適用しております。対応する繰延ヘッジ損失は67百万円（税効果会計適用後）であり、中間貸借対照表に計上しております。

デリバティブ取引関係

当中間会計期間（自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日）

1．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 契約額等のうち1年超 | 時価 | 当該時価の算定方法 |
|----------|--------------|---------|------|------------|----|--------------|
| 原則的処理方法 | 為替予約取引 | 投資信託 | 709 | - | 6 | 先物為替相場によっている |

セグメント情報等

当中間会計期間(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)

1．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2．関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

1 株当たり情報

| | 自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日 |
|-------------|-----------------------------------|
| 1 株当たり純資産額 | 15,954円87銭 |
| 1 株当たり中間純利益 | 1,448円44銭 |

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益につきましては、新株予約権付社債等潜在株式がないため、記載しておりません。
2. 1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
- | | |
|--------------|----------|
| 中間純利益 | 7,460百万円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | - |
| 普通株式に係る中間純利益 | 7,460百万円 |
| 期中平均株式数 | 5,150千株 |

4【利害関係人との取引制限】

委託者は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託者の親法人等(委託者の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)又は子法人等(委託者が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託者の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託者の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

(1)定款の変更

委託者の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟事件その他の重要事項

委託者およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託者

| (a)名称 | (b)資本金の額 [*] | (c)事業の内容 |
|--|-----------------------|--|
| 株式会社りそな銀行 (再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社) | 279,928百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。 |

*平成26年2月末現在

(2)販売会社

| (a)名称 | (b)資本金の額 [*] | (c)事業の内容 |
|--------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| アーク証券株式会社 | 2,619百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| 藍澤証券株式会社 | 8,000百万円 | |
| むさし証券株式会社 | 5,000百万円 | |
| SMBC日興証券株式会社 | 10,000百万円 | |
| 八十二証券株式会社 | 800百万円 | |
| 安藤証券株式会社 | 2,280百万円 | |
| 株式会社SBI証券 | 47,937百万円 | |
| いちよし証券株式会社 | 14,577百万円 | |
| リテラ・クリア証券株式会社 | 3,794百万円 | |
| 今村証券株式会社 | 500百万円 | |
| 岩井コスモ証券株式会社 ¹ | 13,500百万円 | |
| ひろぎんウツミ屋証券株式会社 | 6,100百万円 | |
| エイチ・エス証券株式会社 | 3,000百万円 | |
| 永和証券株式会社 | 500百万円 | |
| エース証券株式会社 | 8,831百万円 | |
| 岡三証券株式会社 | 5,000百万円 | |
| 岡地証券株式会社 | 1,500百万円 | |
| おきなわ証券株式会社 | 628百万円 | |
| マネックス証券株式会社 | 7,425百万円 | |
| 香川証券株式会社 | 555百万円 | |
| 日本アジア証券株式会社 | 4,100百万円 | |
| 木村証券株式会社 | 500百万円 | |
| 極東証券株式会社 | 5,251百万円 | |
| あかつき証券株式会社 | 3,528百万円 | |
| 光世証券株式会社 | 12,000百万円 | |
| 寿証券株式会社 | 305百万円 | |
| 静岡東海証券株式会社 | 600百万円 | |
| 荘内証券株式会社 | 100百万円 | |
| 上光証券株式会社 | 500百万円 | |
| 新大垣証券株式会社 | 175百万円 | |
| 日産センチュリー証券株式会社 | 1,500百万円 | |

| | | |
|--------------------------|--------------|--------------------|
| 大熊本証券株式会社 | 343百万円 | |
| 高木証券株式会社 | 11,069百万円 | |
| ちばぎん証券株式会社 | 4,374百万円 | |
| 東海東京証券株式会社 | 6,000百万円 | |
| 東武証券株式会社 | 420百万円 | |
| 東洋証券株式会社 | 13,494百万円 | |
| 内藤証券株式会社 | 3,002百万円 | |
| 中原証券株式会社 | 506百万円 | |
| フィリップ証券株式会社 | 950百万円 | |
| 新潟証券株式会社 | 600百万円 | |
| 浜銀TT証券株式会社 | 3,307百万円 | |
| ばんせい証券株式会社 | 1,558百万円 | |
| 日の出証券株式会社 | 4,650百万円 | |
| 廣田証券株式会社 | 600百万円 | |
| ふくおか証券株式会社 | 2,198百万円 | |
| 丸三証券株式会社 | 10,000百万円 | |
| 丸八証券株式会社 | 3,751百万円 | |
| 岡三にいがた証券株式会社 | 852百万円 | |
| 株式会社証券ジャパン | 3,000百万円 | |
| 三木証券株式会社 | 500百万円 | |
| みずほ証券株式会社 ¹ | 125,167百万円 | |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 40,500百万円 | |
| 水戸証券株式会社 | 12,272百万円 | |
| SMBCフレンド証券株式会社 | 27,270百万円 | |
| 明和証券株式会社 | 511百万円 | |
| 山形証券株式会社 | 100百万円 | |
| 豊証券株式会社 | 2,540百万円 | |
| 楽天証券株式会社 | 7,495百万円 | |
| 野村證券株式会社 ² | 10,000百万円 | |
| 株式会社 東北銀行 | 13,233百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営んでいます。 |
| 株式会社 三重銀行 ¹ | 15,295百万円 | |
| 株式会社 三井住友銀行 ¹ | 1,770,996百万円 | |
| 株式会社 十八銀行 | 24,404百万円 | |
| 株式会社 宮崎太陽銀行 | 12,252百万円 | |
| 株式会社 沖縄海邦銀行 | 4,537百万円 | |
| 株式会社 福岡中央銀行 | 2,500百万円 | |
| 株式会社 北洋銀行 | 121,101百万円 | |
| 株式会社 南日本銀行 | 16,601百万円 | |
| 株式会社 みちのく銀行 | 34,167百万円 | |
| 株式会社 秋田銀行 ³ | 14,100百万円 | |

| | | |
|------------------------|-------------------------|-----------------------------------|
| 株式会社 紀陽銀行 ³ | 80,096百万円 | |
| 明治安田生命保険相互会社 | 410,000百万円 ⁴ | 保険業法に基づき生命保険業を営んでいます。 |
| セントラル短資株式会社 | 5,000百万円 | コール資金の貸付けまたはその貸借の媒介等を業として営んでいます。 |
| 近畿産業信用組合 | 19,525百万円 ⁵ | 協同組合による金融事業に関する法律に基づき金融事業を営んでいます。 |

* 平成26年2月末現在

- 1 岩井コスモ証券株式会社、みずほ証券株式会社、株式会社 三重銀行および株式会社三井住友銀行は、新規の募集・販売は行ないません。
- 2 野村証券株式会社における申込みの取扱いは、野村アセットマネジメント株式会社よりファンドの口座を移管した投資家および確定拠出年金法に基づいて個人または事業主が拠出した資金をもって受益権の申込みを行なう投資家ならびに保険業法に規定する特別勘定の投資対象として受益権の申込みを行なう保険会社等に限定させていただきます。
- 3 株式会社秋田銀行および株式会社紀陽銀行における申込みの取扱いは、確定拠出年金法に基づいて個人または事業主が拠出した資金をもって受益権の申込みを行なう投資家に限定させていただきます。
- 4 明治安田生命保険相互会社の資本金の額の箇所には「基金」および「基金償却積立金」の合計額を記載しております。
- 5 近畿産業信用組合の資本金の額の箇所には、出資の総額を記載しております。

2【関係業務の概要】

(1)受託者

ファンドの受託会社（受託者）として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行ないます。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することができます。

<再信託受託者の概要>

名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
 設立年月日 : 平成12年6月20日
 業務の概要 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
 銀行免許取得日および
 信託業務の認可取得日 : 平成12年7月13日

(2)販売会社

ファンドの取扱販売会社として、募集の取扱いおよび販売を行ない、信託契約の一部解約に関する事務、受益権の買取りに関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行ないます。

一般コースのみを取り扱う販売会社は、収益分配金の再投資に関する事務を行ないません。

3【資本関係】

(持株比率5.0%以上を記載します。)

(1)受託者

該当事項はありません。

(2)販売会社

委託会社は、木村証券株式会社の株式の6.3%を所有しています。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

| 提出年月日 | 提出書類 |
|-------------|---------------|
| 平成25年 5月14日 | 有価証券届出書 |
| 平成25年 5月14日 | 有価証券報告書 |
| 平成25年11月12日 | 有価証券届出書の訂正届出書 |
| 平成25年11月12日 | 半期報告書 |

独立監査人の監査報告書

平成25年6月7日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内田 満 雄指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 亀井 純 子指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 重 俊 寛

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が

別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年4月3日

野村アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | |
|--------------------|-------|------------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 岩 部 俊 夫 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 森 重 俊 寛 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている株式インデックス 225の平成25年2月19日から平成26年2月17日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式インデックス 225の平成26年2月17日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成25年11月22日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | |
|--------------------|-------|------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 岩部俊夫 |
|--------------------|-------|------|

| | | |
|--------------------|-------|------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 森重俊寛 |
|--------------------|-------|------|

| | | |
|--------------------|-------|-----|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 湯原尚 |
|--------------------|-------|-----|

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第55期事業年度の中間会計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の平成25年9月30日現在の財政状態

及び同日をもって終了する中間会計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 中間財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。